

0001

監査計画事例 > 監査目的・監査対象・範囲 | 難易度：基礎

【事例】A社は基幹システムをクラウドへ移行した。監査部門は『移行後の統制が適切に機能しているか』を確認したい。個別監査の監査目的として最も適切なものはどれか。

- ア．クラウド移行後の責任分界と主要統制が、A社の方針・契約・リスクに照らして有効に機能しているか評価する
- イ．クラウド製品の機能一覧を作成する
- ウ．移行プロジェクトの担当者数を確認する
- エ．クラウド利用料が最安か確認する

答え・解説

正答：ア

ア：監査目的は対象と評価観点を明確にし、単なる事実確認ではなくガバナンス・マネジメント・コントロールの有効性評価へつなげる。

イ：製品調査であり、監査目的として統制の有効性評価が不足する。

ウ：人員数だけでは統制が適切か評価できない。

エ：費用だけに限定され、監査の狙いと一致しない。

総合解説：科目B-1では、事例に示されたリスクや管理上の課題から、何を保証・評価する監査かを具体化する力が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0002

監査計画事例 > 監査目的・監査対象・範囲 | 難易度：基礎

【事例】B社では営業部門が生成AIを顧客提案書の作成に利用している。監査対象として最も適切な範囲はどれか。

- ア．AIモデルの名称だけ
- イ．生成AIの利用方針、入力データ、出力レビュー、権限、利用ログ、外部サービスとの契約を含む一連の利用プロセス
- ウ．営業担当者の人数だけ
- エ．提案書の最終ページだけ

答え・解説

正答：イ

ア：モデル名だけでは利用統制を評価できない。

イ：生成AI利用のリスクは入力・処理・出力・外部サービス利用にまたがるため、業務プロセス全体を対象にする必要がある。

ウ：利用者数は監査範囲の一部情報にすぎない。

エ：利用プロセス全体の統制を確認できない。

総合解説：監査対象はシステムだけでなく、利用ルール、データ、権限、契約、レビューなど関連コントロールを含めて境界付ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0003

監査計画事例 > 監査目的・監査対象・範囲 | 難易度：基礎

【事例】C社の監査依頼は『購買システムの不正防止を確認してほしい』である。監査範囲を具体化する際に最も適切なものはどれか。

- ア．購買システムのサーバ性能だけ
- イ．購買担当者の勤続年数だけ
- ウ．発注申請から承認、発注、検収、支払までの業務と、それを支える権限・マスタ・ログを対象にする
- エ．発注画面の配色だけ

答え・解説

正答：ウ

ア：不正防止の監査目的と直接対応しない。
イ：不正リスクを評価する監査範囲として不十分である。
ウ：不正防止を評価するには、購買プロセスとシステム上の職務分掌・権限・証跡を一体で確認する必要がある。
エ：統制の有効性と関係がない。
総合解説：監査範囲は監査目的を達成するために必要な業務工程、システム機能、権限、証跡まで含めて設定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0004

監査計画事例 > 監査目的・監査対象・範囲 | 難易度：標準

【事例】D社では海外拠点も同じ顧客管理システムを利用しているが、今回の監査期間は国内拠点の4～6月である。最も適切な監査範囲の記述はどれか。

- ア．全世界・全期間を対象と書く
- イ．期間を記載しない
- ウ．対象外を一切記載しない
- エ．国内拠点における4～6月の顧客管理業務と関連システム統制を対象とし、海外拠点は原則対象外と明示する

答え・解説

正答：エ

ア：実際の監査実施範囲と不一致になり結論が過大解釈される。
イ：どの期間について結論を述べるのか不明確になる。
ウ：範囲境界が曖昧になる。
エ：組織、期間、業務、システムの境界を明確にすることで、監査結論の適用範囲を明示できる。
総合解説：科目B-1では、事例から監査対象の組織、期間、業務、システム、外部委託などを具体的に切り分ける必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0005

監査計画事例 > 監査目的・監査対象・範囲 | 難易度：標準

【事例】E社は情報漏えい事故後、アクセス権管理の緊急監査を行う。最も適切な監査目的はどれか。

ア．アクセス権の付与・変更・削除・利用が適切に管理され、漏えいにつながる過剰権限等がないが評価する

イ．漏えい事故の報道件数を集計する

ウ．全社員のPC性能を比較する

エ．監査報告書のページ数を決める

答え・解説

正答：ア

ア：事故の背景リスクに直接対応し、アクセス権管理の設計・運用を評価する目的になっている。

イ：アクセス権統制の有効性を評価できない。

ウ：事故原因リスクとの関連が弱い。

エ：監査目的ではない。

総合解説：発生事象をそのまま監査目的にせず、背後にあるリスクとコントロールを特定して評価目的へ落とし込む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0006

監査計画事例 > 監査目的・監査対象・範囲 | 難易度：標準

【事例】F社は外部委託先に給与計算業務を委託している。委託先監査で対象に含めるべき事項として最も適切なものはどれか。

ア．委託先の社内イベント予定

イ．委託契約、個人情報管理、アクセス権、処理結果の照合、事故時連絡、再委託管理

ウ．委託先社員の趣味

エ．委託先のオフィス家具だけ

答え・解説

正答：イ

ア：監査目的と関係しない。

イ：委託先監査では契約と実運用の双方を確認し、業務・情報・サービス継続の統制を評価する。

ウ：統制評価の対象ではない。

エ：業務統制と関係しない。

総合解説：外部委託では責任分界、契約要件、情報管理、処理品質、再委託、インシデント、継続性を監査範囲へ含める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0007

監査計画事例 > 監査目的・監査対象・範囲 | 難易度：標準

【事例】G社の監査依頼者は『新システムが予定どおり稼働したか』だけでなく、『投資効果も確認したい』と要望した。監査対象範囲として最も適切なものはどれか。

- ア．開発中のソースコードだけ
- イ．プロジェクト開始前の議事録だけ
- ウ．導入プロジェクトだけでなく、稼働後のKPI・利用状況・効果測定プロセスまで含める
- エ．本番開始日の確認だけ

答え・解説

正答：ウ

ア：投資効果を確認できない。

イ：稼働後成果を評価できない。

ウ：投資効果を監査目的に含めるなら、稼働後の成果測定まで範囲に含める必要がある。

エ：予定どおりの稼働確認にとどまり効果評価ができない。

総合解説：監査目的と監査範囲は対応させる必要があり、効果評価を目的に含めるなら測定指標と稼働後実績を対象とする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0008

監査計画事例 > 監査目的・監査対象・範囲 | 難易度：標準

【事例】H社では監査期間中に基幹システムの大規模変更が予定されている。監査範囲設定で最も適切な対応はどれか。

- ア．変更を無視して全期間同じ統制と仮定する
- イ．監査を自動的に中止する
- ウ．変更後だけ見て変更前を評価したことにする
- エ．変更前後で統制が異なる可能性を踏まえ、対象期間を区切るか変更プロセスも範囲に含める

答え・解説

正答：エ

ア：実態と異なる評価になる可能性がある。

イ：範囲や手続を調整すれば実施可能な場合がある。

ウ：監査結論の適用期間と証拠が一致しない。

エ：期間中の大規模変更は監査対象の前提を変えるため、範囲・手続へ反映する必要がある。

総合解説：監査期間内に対象環境が変わる場合、変更時点・統制差異・移行リスクを明示し、結論の適用範囲を適切にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0009

監査計画事例 > 監査目的・監査対象・範囲 | 難易度：応用

【事例】I社の監査で、当初対象外だったSaaSが重要業務の認証基盤として使われていることが予備調査で分かった。最も適切な対応はどれか。

- ア．監査目的への影響を評価し、必要ならSaaSの認証・契約・ログ等を監査範囲へ追加する
- イ．当初対象外なので必ず無視する
- ウ．SaaSを使っているだけで監査を終了する
- エ．対象部門へ範囲決定を全面委任する

答え・解説

正答：ア

ア：予備調査で重要な依存関係が判明した場合、当初範囲を見直す必要がある。

イ：重要リスクを見逃す可能性がある。

ウ：監査目的を達成できない。

エ：監査人がリスクに基づいて判断する。

総合解説：個別監査計画は固定物ではなく、新たな重要リスクや依存関係が判明した場合は適切に変更する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0010

監査計画事例 > 監査目的・監査対象・範囲 | 難易度：応用

【事例】J社の監査依頼は非常に広く、『IT全般を監査してほしい』というものだった。限られた期間で最も適切な監査計画上の対応はどれか。

- ア．全項目を浅く一件ずつ確認して十分とする
- イ．経営上の重要性和リスクを評価し、優先度の高い監査目的・対象・範囲へ絞り込む
- ウ．担当者が得意な領域だけ選ぶ
- エ．対象部門に好きな範囲を選ばせる

答え・解説

正答：イ

ア：重要リスクへの十分な監査証拠が得られない可能性がある。

イ：監査資源が有限であるため、リスク・アプローチで焦点を定める必要がある。

ウ：経営リスクとの対応がない。

エ：監査の独立性とリスクベースの考え方を損なう。

総合解説：科目B-1では、広い事例から重要リスクを抽出し、限られた監査時間で何を重点確認するかを判断する力が問われる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0011

監査計画事例 > リスク・コントロール・監査要点 | 難易度：基礎

【事例】販売システムでは営業担当者が値引率を自由入力でき、一定額以上でも上長承認が不要である。この事例で最も重要なリスクはどれか。

- ア．サーバのディスク容量が不足するリスク
- イ．ネットワーク遅延が発生するリスク
- ウ．過大値引きや不正な価格操作により利益が毀損するリスク
- エ．バックアップ媒体を紛失するリスク

答え・解説

正答：ウ

ア：値引承認統制から直接導かれない。

イ：事例の統制課題と無関係である。

ウ：自由入力かつ承認不要という統制不備から、価格の正当性と収益性に影響するリスクを導く。

エ：値引処理の統制とは別論点である。

総合解説：監査要点を設定する前に、事例中の業務条件とコントロール不足から具体的な事業リスクを特定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0012

監査計画事例 > リスク・コントロール・監査要点 | 難易度：基礎

【事例】前問の販売システムに対するコントロールとして最も適切なものはどれか。

- ア．全営業担当者に管理者権限を付与する
- イ．値引履歴を保存しない
- ウ．価格変更を口頭だけで認める
- エ．値引率に応じた承認限度を設定し、限度超過時は上長承認を必須とする

答え・解説

正答：エ

ア：リスクを高める。

イ：事後確認もできなくなる。

ウ：承認証跡が残らない。

エ：リスクに直接対応する予防統制であり、過大値引きを抑制できる。

総合解説：リスク、コントロール、監査要点を一連で考えることがB-1事例分析の基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0013

監査計画事例 > リスク・コントロール・監査要点 | 難易度：基礎

【事例】退職者IDが退職後も有効なまま残る事例が複数あった。監査要点として最も適切なものはどれか。

- ア．退職情報に基づきアカウントが適時に無効化され、不要権限が残存しない仕組みが機能しているか
- イ．退職者のPC性能が高いか
- ウ．人事部門の座席位置が適切か
- エ．ID名称が短い

答え・解説

正答：ア

ア：識別したリスクと期待コントロールを、監査で確認すべき具体的な要点へ落とし込んでいる。

イ：アクセスリスクと関係しない。

ウ：監査要点ではない。

エ：不要権限リスクを評価できない。

総合解説：監査要点は『何を確かめれば、そのリスクへのコントロールが有効と判断できるか』という形で設定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0014

監査計画事例 > リスク・コントロール・監査要点 | 難易度：標準

【事例】RPAが請求データを会計システムへ自動登録する。RPAのシナリオ変更を担当者一人で行える。最も重要なリスクはどれか。

- ア．RPA端末の壁紙が変更されるリスク
- イ．未承認のシナリオ変更により誤った仕訳が大量登録されるリスク
- ウ．利用者がRPAという用語を知らないリスク
- エ．プリンタ用紙が不足するリスク

答え・解説

正答：イ

ア：会計処理の正確性と無関係である。

イ：自動化処理は一度の誤設定が大量データへ反復適用されるため、変更管理が重要である。

ウ：直接的な統制リスクではない。

エ：自動仕訳処理とは関係しない。

総合解説：RPAではシナリオ変更、権限、例外処理、ログ、再実行等のコントロールを監査要点に設定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0015

監査計画事例 > リスク・コントロール・監査要点 | 難易度：標準

【事例】クラウド障害時の責任分界が契約に明記されていない。最も適切な監査要点はどれか。

- ア．クラウド事業者のロゴが最新か
- イ．契約書のページ数が多いか
- ウ．障害時の連絡、復旧、データ保全、代替対応について利用者と事業者の責任が明確か
- エ．利用料金の端数処理だけ

答え・解説

正答：ウ

ア：責任分界と無関係である。

イ：内容の明確性が重要である。

ウ：責任分界の曖昧さは障害時の対応遅延や対応漏れにつながる。

エ：障害時責任とは別論点である。

総合解説：外部サービスの事例では、契約上の責任と実際の運用体制が整合しているかを監査要点にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0016

監査計画事例 > リスク・コントロール・監査要点 | 難易度：標準

【事例】重要システムのバックアップは毎日成功しているが、復元テストは3年間実施していない。最も適切なリスク評価はどれか。

- ア．毎日バックアップしているのでリスクはない
- イ．バックアップ件数が多すぎるリスクだけがある
- ウ．監査対象外なので評価不要
- エ．バックアップデータが実際には復元できず、障害時に業務復旧できないリスクが残る

答え・解説

正答：エ

ア：復元可能性が未確認である。

イ：本質は復旧できるかである。

ウ：重要システムの継続性に直結する。

エ：取得成功と復元可能性は異なるため、復元テストが必要である。

総合解説：監査では『実施している』という形式だけでなく、統制目的を実際に達成できるかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0017

監査計画事例 > リスク・コントロール・監査要点 | 難易度：標準

【事例】開発チームはコードレビューを必須としているが、実際にはレビュー記録がほとんど残っていない。監査要点として最も適切なものはどれか。

- ア．重要変更について独立したレビューが実施され、その証跡が残されているか
- イ．コード行数が毎月増えているか
- ウ．開発者の年齢が均等か
- エ．レビュー記録を後から一括作成できるか

答え・解説

正答：ア

ア：規程上の統制が運用されているかを確認する監査要点である。

イ：レビュー統制の有効性と関係しない。

ウ：統制評価の論点ではない。

エ：実施時点の証跡であることが重要である。

総合解説：文書上の統制が存在しても、実際の実施証跡がなければ運用有効性を確認できない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0018

監査計画事例 > リスク・コントロール・監査要点 | 難易度：標準

【事例】AIモデルの学習データに過去の誤った顧客分類が多く含まれている。最も重要なリスクはどれか。

- ア．モデル名が長くなるリスク
- イ．誤ったデータを学習したモデルが不適切な分類を継続的に出力するリスク
- ウ．AI利用が増えること自体のリスクだけ
- エ．ネットワーク配線が複雑になるリスク

答え・解説

正答：イ

ア：出力品質と無関係である。

イ：入力データ品質はモデル出力品質へ直接影響する。

ウ：事例の中心は学習データ品質である。

エ：モデル学習データとは無関係である。

総合解説：AI監査ではデータ品質、モデル性能、利用目的、出力レビュー、変更管理などをリスク・コントロールへ展開する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0019

監査計画事例 > リスク・コントロール・監査要点 | 難易度：応用

【事例】監査人は『売上データ改ざんリスク』に対して、アクセスログの有無だけを監査要点にした。この設定の問題点はどれか。

- ア．監査要点は常に一つに限定すべきだから
- イ．ログは監査証拠にならないから
- ウ．改ざん防止・検知には権限付与、変更ログ、承認、職務分掌など複数の統制を確認する必要がある、要点が狭すぎる
- エ．売上データは監査対象にならないから

答え・解説

正答：ウ

ア：必要な複数要点を設定できる。

イ：ログは重要な監査証拠になり得る。

ウ：一つのログ存在確認だけでは、改ざんリスクへのコントロール全体を評価できない。

エ：重要業務データは監査対象になり得る。

総合解説：リスクに対して、予防・発見・是正の各統制がどのように機能するかを踏まえて監査要点を設定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0020

監査計画事例 > リスク・コントロール・監査要点 | 難易度：応用

【事例】監査対象部門は『事故は一度も起きていないので統制は有効』と主張した。監査人の判断として最も適切なものはどれか。

- ア．事故がないので監査手を省略する
- イ．事故がないことを唯一の監査証拠とする
- ウ．事故がなければリスクも存在しないと判断する
- エ．事故がない事実だけでは統制の有効性を証明できないため、統制の設計と運用証拠を確認する

答え・解説

正答：エ

ア：統制の実効性を評価できない。

イ：証拠として不十分である。

ウ：未顕在化リスクは存在し得る。

エ：結果として事故がなかったことと、コントロールが有効に機能していたことは同義ではない。

総合解説：科目B-1では、事例中の説明をそのまま受け入れず、リスク・コントロール・証拠の関係から判断する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0021

監査計画事例 > 個別監査計画・監査手続 | 難易度：基礎

【事例】退職者IDの残存を監査する。最も適切な監査手続はどれか。

ア．人事の退職者一覧とシステムの有効ID一覧を突合し、退職日後も有効なIDを抽出して無効化記録を確認する

イ．管理者に『退職者IDはないか』と質問するだけ

ウ．ID一覧の件数だけ数える

エ．一人の現役社員だけ確認する

答え・解説

正答：ア

ア：監査要点に直接対応し、母集団全体から例外を抽出できる手続である。

イ：自己申告だけでは十分な証拠にならない。

ウ：退職者との対応を確認できない。

エ：退職者ID残存リスクを検証できない。

総合解説：監査手続は、誰のどの資料を使い、何と何を比較し、どの例外を確認するかまで具体化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0022

監査計画事例 > 個別監査計画・監査手続 | 難易度：基礎

【事例】IT投資額の過小見積りリスクを監査する。最も適切な手続はどれか。

ア．投資案件名の文字数を確認する

イ．投資見積り資料を査閲し、関連システム改修・移行・運用等の必要費用が漏れなく含まれているか確認する

ウ．担当役員の出席回数だけ確認する

エ．稼働後の障害件数だけ確認する

答え・解説

正答：イ

ア：投資額の妥当性と関係しない。

イ：投資計画の見積り範囲と根拠を直接検証する手続である。

ウ：費用見積りの完全性を評価できない。

エ：投資額の過小見積りを直接検証しない。

総合解説：IPAの過去B-1型事例でも、見積り資料を査閲し不足費用が考慮されているか確かめるような具体的手続が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0023

監査計画事例 > 個別監査計画・監査手続 | 難易度：基礎

【事例】開発プロジェクトでテスト承認の形骸化が疑われる。最も適切な監査手続はどれか。

- ア．テスト規程の表紙だけ見る
- イ．担当者に『承認していますか』と一度聞く
- ウ．テスト完了案件からサンプルを選び、テスト結果・欠陥対応・承認記録を追跡する
- エ．全案件を問題なしと仮定する

答え・解説

正答：ウ

ア：運用有効性を確認できない。

イ：客観的な運用証拠が不足する。

ウ：規程の存在だけでなく、実際の案件で承認統制が運用されたかを確認できる。

エ：監査手続になっていない。

総合解説：統制テストでは母集団から対象を選び、証拠を通じて統制が実際に実施されたかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0024

監査計画事例 > 個別監査計画・監査手続 | 難易度：標準

【事例】SaaSの管理者権限が適切か確認したい。最も適切な監査手続はどれか。

- ア．SaaSの画面デザインだけを見る
- イ．管理者人数が偶数か確認する
- ウ．契約料金だけ確認する
- エ．管理者権限一覧を取得し、承認台帳・所属・職務と突合した上で、利用ログから実利用を確認する

答え・解説

正答：エ

ア：権限管理を評価できない。

イ：妥当性判断にならない。

ウ：アクセス権リスクと関係しない。

エ：権限付与の妥当性と実際の利用状況を組み合わせて評価できる。

総合解説：監査手続は台帳・承認・職務・ログなど複数証拠を組み合わせ、監査要点に対する合理的根拠を得る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0025

監査計画事例 > 個別監査計画・監査手続 | 難易度：標準

【事例】監査対象の変更管理では緊急変更が多い。個別監査計画で最も適切な手続設計はどれか。

ア：通常変更と緊急変更を区分し、緊急変更について事後承認・テスト・恒久対応の実施状況を重点確認する

イ：通常変更だけ見て緊急変更を除外する

ウ：緊急変更は全て不正と決めつける

エ：変更件数だけ確認して内容を見ない

答え・解説

正答：ア

ア：緊急変更は通常統制を一部簡略化するため、固有リスクに応じた手続が必要である。

イ：高リスクな例外処理を見逃す。

ウ：正当な緊急対応も存在する。

エ：統制の有効性を評価できない。

総合解説：個別監査計画は画一的なチェックリストではなく、対象固有のリスクへ監査手続を適合させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0026

監査計画事例 > 個別監査計画・監査手続 | 難易度：標準

【事例】監査期間は20営業日、担当者2名である。監査対象には高リスクの権限管理と低リスクの文書管理がある。最も適切な計画はどれか。

ア：全領域へ完全に同じ工数を割り当てる

イ：高リスクの権限管理へ多くの工数と深い手続を配分し、低リスク領域は必要最小限の確認とする

ウ：低リスク文書管理だけ詳しく確認する

エ：高リスク領域を時間不足のため除外する

答え・解説

正答：イ

ア：リスク差を反映できない。

イ：限られた監査資源はリスク・アプローチで配分する。

ウ：重要リスクを見逃す。

エ：監査目的達成に反する。

総合解説：個別監査計画では監査目標、リスク、担当者能力、期間を踏まえ、重点手続へ資源を集中する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0027

監査計画事例 > 個別監査計画・監査手続 | 難易度：標準

【事例】監査対象部門から『本調査はオンラインだけにしてほしい』と要望された。物理的な入室管理も監査対象である。最も適切な計画はどれか。

- ア．要望どおり物理統制を無条件に除外する
- イ．オンライン監査では監査証拠は不要とする
- ウ．オンラインで取得可能な証拠を活用しつつ、物理統制はライブ映像や必要に応じ現地確認など代替・補完手続を計画する
- エ．対象部門の自己申告だけで物理統制を有効とする

答え・解説

正答：ウ

ア：監査目的を達成できない。

イ：証拠要件は変わらない。

ウ：監査目的を維持しながら実行可能な手続を組み合わせる必要がある。

エ：客観的裏付けが不足する。

総合解説：監査制約がある場合は、代替手続で十分か、範囲制約として扱うべきかを判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0028

監査計画事例 > 個別監査計画・監査手続 | 難易度：標準

【事例】本調査開始後、監査対象データの一部が取得不能と分かった。最も適切な対応はどれか。

- ア．データがなくても当初結論を維持する
- イ．取得不能を記録せず監査を続ける
- ウ．監査対象部門に結論を決めてもらう
- エ．監査目的への影響を評価し、代替証拠の取得又は監査範囲・手続の変更を行い、その理由を記録する

答え・解説

正答：エ

ア：合理的根拠が不足する。

イ：レビュー時に制約を把握できない。

ウ：監査人の責任を放棄する。

エ：証拠制約が生じた場合、監査計画を見直し合理的根拠を確保する必要がある。

総合解説：個別監査計画は状況に応じ変更し、その理由・承認・監査結論への影響を調書化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0029

監査計画事例 > 個別監査計画・監査手続 | 難易度：応用

【事例】AIによる大量ログ分析を監査手続へ組み込む。計画段階で最も重要な事項はどれか。

- ア．分析対象データ、異常判定条件、AI出力の検証方法、機密情報の取扱いを定める
- イ．AIの製品名だけ決める
- ウ．出力結果は全て正しいと仮定する
- エ．分析条件を記録しない

答え・解説

正答：ア

ア：AIを使うこと自体ではなく、入力・処理・出力を統制し監査証拠としての信頼性を確保する必要がある。
イ：監査手続の再現性・信頼性が不足する。
ウ：誤検出・見逃しの可能性がある。
エ：監査調書として追跡できない。
総合解説：CAATを使う場合も、監査目標・データ完全性・ロジック・結果検証・調書化を事前に設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0030

監査計画事例 > 個別監査計画・監査手続 | 難易度：応用

【事例】個別監査計画に『関係資料を確認する』とだけ記載されていた。この記述を改善する最も適切な方法はどれか。

- ア．『十分注意して確認する』と追記する
- イ．確認する資料、対象期間、抽出条件、確認事項、期待する証拠を具体的に記載する
- ウ．資料名を記載せず担当者の経験に任せる
- エ．監査結論を先に記載する

答え・解説

正答：イ

ア：具体的な作業内容が依然不明である。
イ：監査手続は第三者が追跡・再実施できる程度に具体化する必要がある。
ウ：属人化しレビューできない。
エ：証拠収集前に結論を決めるのは不適切である。
総合解説：科目B-1では『資料を確認する』だけでなく、何をどう確認して何を確かめるかまで具体的に表現することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0031

予備調査・本調査事例 > 資料分析・インタビュー | 難易度：基礎

【事例】監査人は外部委託管理の予備調査で、契約書、SLA、障害報告、委託先評価表を入手した。最も適切な資料分析はどれか。

- ア：資料のページ数だけ比較する
- イ：最も新しい資料だけを読み他は捨てる
- ウ：契約上の要求と実際の運用実績を対応付け、未達・例外・責任分界の不整合を抽出する
- エ：委託先評価表だけを無条件に信頼する

答え・解説

正答：ウ

ア：統制の実効性を評価できない。

イ：相互関係や時系列を確認できない。

ウ：複数資料を横断して比較することで、契約と実態のギャップを把握できる。

エ：自己評価や形式評価の可能性があるため他資料と突合する必要がある。

総合解説：科目B-1では、事例中に散在する資料・事実を関連付け、監査上の疑問点を抽出する力が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0032

予備調査・本調査事例 > 資料分析・インタビュー | 難易度：基礎

【事例】業務フロー図では『上長承認後に支払』となっているが、インタビューでは『急ぎの場合は承認前に支払うことがある』と判明した。最も適切な次の対応はどれか。

- ア：業務フロー図が正式なのでインタビュー内容を無視する
- イ：インタビューだけで統制不備と確定する
- ウ：フロー図を監査人が勝手に書き換える
- エ：例外処理の条件・承認・件数を確認し、実際の支払記録から運用実態を検証する

答え・解説

正答：エ

ア：実態を見逃す可能性がある。

イ：実際の発生状況と証拠を確認する必要がある。

ウ：業務執行への不適切な関与である。

エ：文書とインタビューの差異は重要な監査手掛かりであり、客観的証拠で追加確認する。

総合解説：予備調査では文書化された手続と現場運用の差異を識別し、本調査で検証すべき事項へ落とし込む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0033

予備調査・本調査事例 > 資料分析・インタビュー | 難易度：基礎

【事例】システム管理者へのインタビューで『特権IDは厳格に管理している』との回答を得た。最も適切な追加確認はどれか。

- ア．特権ID一覧、付与承認、利用ログ、定期レビュー記録を入手して説明を裏付ける
- イ．回答者の役職が高いので追加確認しない
- ウ．同じ質問をもう一度するだけ
- エ．特権IDの名称だけ確認する

答え・解説

正答：ア

ア：インタビューは有用だが、重要統制については客観的証拠との突合が必要である。

イ：役職は証拠の正確性を保証しない。

ウ：証拠の種類が増えない。

エ：管理の有効性を評価できない。

総合解説：口頭説明は他の文書・ログ・観察等と組み合わせて信頼性を高める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0034

予備調査・本調査事例 > 資料分析・インタビュー | 難易度：標準

【事例】複数部門へ同じ質問をしたところ、バックアップ保管場所について回答が食い違った。最も適切な監査人の対応はどれか。

- ア．役職が高い部門の説明を自動的に採用する
- イ．バックアップ設定・運用手順・保管記録を確認し、どの回答が実態と整合するか検証する
- ウ．回答が違うので両方正しいとする
- エ．質問自体を監査調書から削除する

答え・解説

正答：イ

ア：客観的根拠にならない。

イ：矛盾する説明は追加調査のきっかけであり、客観的資料で事実を確定する。

ウ：矛盾を解消できない。

エ：重要な監査手掛かりを失う。

総合解説：複数情報源の整合性を確認し、必要に応じ追加インタビューや現地確認へ展開する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0035

予備調査・本調査事例 > 資料分析・インタビュー | 難易度：標準

【事例】監査対象部門から大量の資料が提出された。予備調査で最も適切な進め方はどれか。

- ア．提出順に全て同じ時間をかけて読む
- イ．資料が多いので一切読まない
- ウ．監査目的・リスク・監査要点に照らして資料を分類し、重要性の高いものから分析する
- エ．最も短い資料だけを選ぶ

答え・解説

正答：ウ

ア：重要リスクへの集中ができない。

イ：予備調査を行えない。

ウ：大量資料を漫然と読むのではなく、監査目的に沿って優先順位付けする必要がある。

エ：監査上の重要性和関係しない。

総合解説：科目B-1では限られた時間で、事例中のどの情報が監査目的に重要かを選別する力が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0036

予備調査・本調査事例 > 資料分析・インタビュー | 難易度：標準

【事例】営業部門は『AI出力は必ず人が確認している』と説明した。インタビューで追加すべき質問として最も適切なものはどれか。

- ア．AI製品のロゴは何色か
- イ．AIが好きか嫌いか
- ウ．確認者の趣味は何か
- エ．誰が、どの基準で、どのタイミングに確認し、問題があった場合どう記録・是正するか

答え・解説

正答：エ

ア：統制評価と無関係である。

イ：個人的嗜好は監査要点ではない。

ウ：監査目的と関係しない。

エ：抽象的な『確認している』を、実際のコントロールとして評価可能な情報へ具体化する質問である。

総合解説：インタビューでは、役割、基準、頻度、証跡、例外処理を質問し、統制の設計・運用を具体的に把握する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0037

予備調査・本調査事例 > 資料分析・インタビュー | 難易度：標準

【事例】過去3年の障害報告書を分析したところ、同一原因の障害が繰り返されている。予備調査で最も適切な着眼点はどれか。

- ア．根本原因分析と恒久対策が実施・フォローされているか
- イ．障害報告書のフォントが統一されているか
- ウ．障害件数をゼロと記載し直す
- エ．過去資料なので無視する

答え・解説

正答：ア

ア：同一原因の再発は、問題管理や改善プロセスが有効に機能していない可能性を示す。

イ：再発防止と関係しない。

ウ：事実を改変する不適切な行為である。

エ：再発傾向の把握に重要である。

総合解説：資料分析では単一事象だけでなく、反復・増減・共通原因など時系列パターンを監査手掛かりにする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0038

予備調査・本調査事例 > 資料分析・インタビュー | 難易度：標準

【事例】監査対象部門の責任者と実務担当者の説明が異なる。責任者は『手続どおり』、担当者は『繁忙時は省略する』と述べた。最も適切な対応はどれか。

- ア．責任者の説明だけを採用する
- イ．実務記録から省略の有無と頻度を確認し、必要に応じ双方へ追加インタビューする
- ウ．担当者の説明だけで重大不備と断定する
- エ．両者を同席させて責任追及から始める

答え・解説

正答：イ

ア：実務実態を見逃す可能性がある。

イ：立場の違う説明を、実データと証拠で検証する必要がある。

ウ：客観的証拠が必要である。

エ：事実確認より対立を生む可能性がある。

総合解説：インタビューは役割ごとの認識差も有用な情報であり、客観的証拠と組み合わせて実態を把握する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0039

予備調査・本調査事例 > 資料分析・インタビュー | 難易度：応用

【事例】監査人がインタビュー中に『この統制は明らかに不十分ですね』と質問した。問題点として最も適切なものはどれか。

- ア．質問が短いこと
- イ．専門用語を使っていないこと
- ウ．誘導的な質問であり、回答者の説明を歪めて客観性を損なう可能性がある
- エ．記録を取っていること

答え・解説

正答：ウ

ア：長さ自体は問題ではない。

イ：平易な質問はむしろ有用な場合がある。

ウ：監査人は仮説を持っていても、公正不偏な質問で事実を収集する必要がある。

エ：適切な記録は必要である。

総合解説：オープン質問で事実を把握し、確認質問で詳細を詰める。結論を前提とした誘導質問は避ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0040

予備調査・本調査事例 > 資料分析・インタビュー | 難易度：応用

【事例】提出されたシステム構成図が2年前のもので、現在のクラウドサービスが記載されていない。最も適切な対応はどれか。

- ア．正式文書なので現状も同じと仮定する
- イ．構成図は古いので監査を終了する
- ウ．監査人が推測でクラウドを追記する
- エ．現行構成を示す資料や設定情報を追加取得し、旧構成図との差異と更新管理を確認する

答え・解説

正答：エ

ア：実態とずれていることが判明している。

イ：代替資料や現地確認で現状把握できる。

ウ：客観的な根拠が必要である。

エ：古い資料を現状証拠として使う前に鮮度・適合性を評価する必要がある。

総合解説：資料分析では作成時点、対象範囲、作成者、更新履歴を確認し、監査目的に使える証拠が評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0041

予備調査・本調査事例 > 現状把握・問題点識別 | 難易度：基礎

【事例】規程ではパスワードを90日ごとに変更するとあるが、システム設定は無期限だった。最も適切な問題点の識別はどれか。

- ア．規程で定めたアクセス管理方針と実システム設定が不一致である
- イ．パスワードの文字数が短いと断定する
- ウ．必ず不正アクセスが発生したと判断する
- エ．規程があるので問題はないとする

答え・解説

正答：ア

ア：あるべき状態と現状の差異を具体的に示している。

イ：事例には文字数の情報がない。

ウ：統制不備から事故発生を断定できない。

エ：実運用が規程に一致していない。

総合解説：現状把握では、規程・契約・基準等の期待状態と実態を比較し、差異を問題点候補として整理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0042

予備調査・本調査事例 > 現状把握・問題点識別 | 難易度：基礎

【事例】毎月実施するはずの権限レビューが、過去12か月で4回しか行われていない。最も適切な問題点はどれか。

- ア．権限レビューは不要である
- イ．定めた頻度で権限レビューが実施されず、不要権限の検出が遅れる可能性がある
- ウ．4回実施されているので完全に有効である
- エ．必ず権限不正利用が発生している

答え・解説

正答：イ

ア：アクセス管理上の重要な統制である。

イ：統制の実施頻度と、その不備によるリスクを結び付けている。

ウ：規定頻度との乖離がある。

エ：実際の不正発生は別途確認が必要である。

総合解説：問題点識別では、差異そのものと潜在的影響を分けて整理すると明確になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0043

予備調査・本調査事例 > 現状把握・問題点識別 | 難易度：基礎

【事例】障害発生時の連絡網は整備されているが、担当者の半数が連絡先更新を把握していなかった。最も適切な現状評価はどれか。

- ア．連絡網があるので統制は完全に有効
- イ．連絡先が古いので連絡網自体を廃止すべき
- ウ．手順は整備されているが、周知・維持管理が不十分で実効性に懸念がある
- エ．担当者の記憶力だけが問題である

答え・解説

正答：ウ

ア：実際に使える状態かの確認が必要である。

イ：改善方法は別途検討する。

ウ：整備状況と運用有効性を分けて評価している。

エ：周知・更新プロセスという組織的統制を評価する。

総合解説：科目B-1では『規程がある』だけで有効とせず、現場で機能する状態かを事例から判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0044

予備調査・本調査事例 > 現状把握・問題点識別 | 難易度：標準

【事例】クラウドの管理者アカウントは5名に付与されているが、うち2名は現在その業務を担当していない。最も直接的な問題点はどれか。

- ア．管理者が5名いること自体が必ず問題
- イ．クラウドを利用していることが問題
- ウ．2名は必ず不正を行う
- エ．業務上不要な特権が残存しており、最小権限の原則が維持されていない

答え・解説

正答：エ

ア：必要人数は業務により異なる。

イ：利用自体ではなく権限管理が論点である。

ウ：不正発生は断定できない。

エ：現状の権限と職務の不一致を具体的に表している。

総合解説：問題点は事実から直接導ける範囲で表現し、未確認の結果を断定しないことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0045

予備調査・本調査事例 > 現状把握・問題点識別 | 難易度：標準

【事例】RPAの処理失敗時、担当者が原因を確認せず何度も再実行している。最も重要な問題点はどれか。

- ア．失敗原因や処理済み範囲を確認しない再実行により、重複処理等が発生するリスクが管理されていない
- イ．RPAは使用してはならない
- ウ．再実行回数が多いことだけが問題
- エ．処理速度が速すぎる

答え・解説

正答：ア

ア：例外処理の統制不足と、その具体的な影響を結び付けている。

イ：技術自体を否定するのは不適切である。

ウ：本質は原因・処理状態を確認しない統制不備である。

エ：事例から導けない。

総合解説：自動処理では失敗検知、原因確認、再実行条件、重複防止、ログが重要なコントロールとなる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0046

予備調査・本調査事例 > 現状把握・問題点識別 | 難易度：標準

【事例】SLAでは重大障害を30分以内に通知するとあるが、直近3件はいずれも2時間以上かかっていた。最も適切な問題点はどれか。

- ア．SLAが存在するので問題はない
- イ．SLAで定めた通知時間が実運用で遵守されておらず、利用者側の初動が遅れるリスクがある
- ウ．通知時間の遅れは可用性と必ず無関係
- エ．3件しかないので全て無視する

答え・解説

正答：イ

ア：実績が要求を満たしていない。

イ：契約上の基準、現状、影響を対応付けている。

ウ：初動や事業継続へ影響し得る。

エ：重大障害の全件で不遵守なら重要性が高い可能性がある。

総合解説：監査ではSLA条項と障害実績を突合し、未達が利用者へ与えた影響と改善状況を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0047

予備調査・本調査事例 > 現状把握・問題点識別 | 難易度：標準

【事例】監査人は、あるシステムのログ保存期間が1か月であることを確認した。しかし法令・契約・社内規程上の必要期間はまだ確認していない。この段階で最も適切な判断はどれか。

- ア．1か月は必ず短すぎると指摘する
- イ．1か月なら必ず十分とする
- ウ．1か月という現状は把握できたが、適切か否かを判断するには評価基準の確認が必要である
- エ．ログ保存期間は監査対象にならない

答え・解説

正答：ウ

ア：評価基準が不明なので断定できない。
イ：同様に根拠がない。
ウ：現状事実と監査判断を区別している。
エ：目的に応じ重要な統制となる。
総合解説：問題点識別では、現状だけでなく『何に照らして問題か』という評価基準が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0048

予備調査・本調査事例 > 現状把握・問題点識別 | 難易度：標準

【事例】AI出力の誤りが10件見つかった。利用者は全件を手で修正しており顧客影響はなかった。最も適切な監査評価はどれか。

- ア．顧客影響がなかったのでAIリスクは存在しない
- イ．誤りが10件あるのでAI利用を必ず停止すべき
- ウ．人手修正したので原因分析は不要
- エ．人手レビューは有効に働いた可能性があるが、誤出力の原因・頻度とレビュー統制の継続性を評価する必要がある

答え・解説

正答：エ

ア：レビューが失敗すれば影響が出る可能性がある。
イ：リスク評価と改善策を検討して判断する。
ウ：継続的な品質改善には原因把握が必要である。
エ：結果だけでAI又はレビュー統制の評価を断定せず、リスクとコントロールの双方を見る。
総合解説：一つの不備があっても他の統制がリスクを低減している場合があるため、統制全体を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0049

予備調査・本調査事例 > 現状把握・問題点識別 | 難易度：応用

【事例】変更申請100件を調べたところ、承認なしの変更が1件あった。最も適切な問題点識別はどれか。

- ア．承認統制に少なくとも1件の逸脱があり、その重要性和原因・影響を追加評価する必要がある
- イ．承認統制は100%無効と断定する
- ウ．99件は承認済みなので問題なしとする
- エ．未承認変更は必ず不正である

答え・解説

正答：ア

ア：一件の逸脱を無視も過大一般化もせず、追加評価へつなげる。
イ：一件から年間全体の統制無効を直ちに断定できない。
ウ：逸脱の重要性を評価する必要がある。
エ：正当な緊急変更等の可能性も確認する。
総合解説：逸脱の性質、原因、重要性、同様事象の可能性を確認し、統制評価へ反映する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0050

予備調査・本調査事例 > 現状把握・問題点識別 | 難易度：応用

【事例】システム障害の平均復旧時間は目標内だが、最重要サービスだけは目標を大幅に超過している。最も適切な評価はどれか。

- ア．平均が目標内なので全サービス問題なし
- イ．全体平均だけでは重要サービスの問題を隠すため、サービス重要度別に復旧実績を評価する
- ウ．最重要サービスだけを除外して平均を再計算する
- エ．復旧時間はサービス監査と関係しない

答え・解説

正答：イ

ア：重要サービスの未達を無視している。
イ：平均値が管理上重要な例外を覆い隠すことがある。
ウ：重要な問題を隠す行為になる。
エ：可用性・継続性の重要指標である。
総合解説：科目B-1では平均値・割合だけでなく、重要性別・例外別に事例データを読み解く力が求められる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0051

予備調査・本調査事例 > 監査技法・CAAT・サンプリング | 難易度：基礎

【事例】10万件の経費精算から、同一領収書番号の重複申請を調べたい。最も適切な監査技法はどれか。

- ア．全件を紙で印刷して目視する
- イ．担当者一人に重複がないか質問する
- ウ．CAATで領収書番号・金額・申請者等を全件分析し重複候補を抽出する
- エ．最初の10件だけ確認する

答え・解説

正答：ウ

ア：非効率で見落としも生じやすい。

イ：客観的な全件検証にならない。

ウ：大量データの特定条件検索はCAATが適している。

エ：重複の全体状況を把握できない。

総合解説：データ分析により重複、閾値分割、休日処理、異常値などを全件から抽出できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0052

予備調査・本調査事例 > 監査技法・CAAT・サンプリング | 難易度：基礎

【事例】年間1万件のアクセス権申請について承認統制の運用を確認したい。全件分析が難しい場合、最も適切なサンプリング設計はどれか。

- ア．先頭の1件だけを確認する
- イ．担当者が選んだ良好な申請だけを見る
- ウ．母集団を把握せず任意に選ぶ
- エ．母集団と統制頻度を確認し、リスクに応じたサンプル数と抽出方法を定める

答え・解説

正答：エ

ア：代表性と十分性が不足する。

イ：選択バイアスがある。

ウ：結果を母集団へ一般化できない。

エ：サンプリングは監査目的・母集団・リスクを踏まえて計画する。

総合解説：母集団、抽出単位、期間、頻度、例外率、重要性を明確にし、適切な抽出方法を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0053

予備調査・本調査事例 > 監査技法・CAAT・サンプリング | 難易度：基礎

【事例】高額取引は全体の1%だが損失影響が大きい。残り99%は小額取引である。最も適切な監査方法はどれか。

- ア．高額取引は全件又は重点確認し、残り母集団にはサンプリングを適用する
- イ．高額取引をサンプルから除外する
- ウ．全取引から1件だけ無作為抽出する
- エ．金額差を無視して同じ扱いにする

答え・解説

正答：ア

ア：重要項目と代表サンプルを組み合わせることで監査リスクを効率的に抑えられる。

イ：重要な誤りを見逃す。

ウ：重要項目の確認が不足する。

エ：重要性を反映できない。

総合解説：高額・高リスク・異常項目は別枠で100%検証し、残余母集団を統計的又は非統計的に抽出する方法が有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0054

予備調査・本調査事例 > 監査技法・CAAT・サンプリング | 難易度：標準

【事例】監査人は『設定どおりアクセス拒否されるか』を確かめたい。最も直接的な監査技法はどれか。

- ア．規程を読むだけ
- イ．権限のないテスト利用者で対象機能へアクセスし、拒否されることを再実施で確認する
- ウ．利用者へ質問するだけ
- エ．サーバ台数を数える

答え・解説

正答：イ

ア：設計上の要求は分かるが実動作を確認できない。

イ：統制の動作を監査人自身が再実施することで直接証拠を得られる。

ウ：自己申告であり直接検証ではない。

エ：アクセス制御と無関係である。

総合解説：閲覧、観察、質問、再実施、データ分析等は、得たい証拠に応じて使い分ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0055

予備調査・本調査事例 > 監査技法・CAAT・サンプリング | 難易度：標準

【事例】在庫棚卸手続が規程どおり行われるかを確認したい。最も適切な技法はどれか。

- ア．棚卸担当者の履歴書だけを見る
- イ．棚卸規程の目次だけを見る
- ウ．実際の棚卸作業を現地で観察し、必要に応じ記録と突合する
- エ．監査人が棚卸記録を事後作成する

答え・解説

正答：ウ

ア：手続実施を確認できない。

イ：運用有効性を確認できない。

ウ：人が実施する手続の実態確認には観察が有効である。

エ：業務執行への関与になる。

総合解説：観察はその時点の実施状況を直接確認できるが、通常時にも同様かを他証拠で補完することがある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0056

予備調査・本調査事例 > 監査技法・CAAT・サンプリング | 難易度：標準

【事例】CAATで退職者IDを全件抽出したところ20件の候補が出た。最も適切な次の手続はどれか。

- ア．20件全てを不正利用と断定する
- イ．抽出結果を確認せず削除する
- ウ．件数だけ報告して原因を調べない
- エ．各候補について退職日、ID状態、業務上の例外理由、実利用ログを確認して真の例外か判断する

答え・解説

正答：エ

ア：正当な例外やデータ不整合の可能性がある。

イ：重要な監査手掛かりを失う。

ウ：指摘の根拠として不十分である。

エ：CAATの抽出結果は問題候補であり、そのまま指摘事項とは限らない。

総合解説：データ分析で例外候補を抽出した後、元資料・ログ・インタビュー等で事実を確定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0057

予備調査・本調査事例 > 監査技法・CAAT・サンプリング | 難易度：標準

【事例】売上データの全件分析を行うため、対象部門からCSVを受領した。分析前に最も重要な確認はどれか。

- ア．抽出条件・対象期間・件数・合計値等を元システムと照合し、母集団の完全性を確認する
- イ．CSVのファイル名が分かりやすいか
- ウ．列の色が統一されているか
- エ．分析ツールへすぐ投入し結果だけ見る

答え・解説

正答：ア

ア：入力データが不完全なら分析結果も信頼できない。

イ：完全性を保証しない。

ウ：データ信頼性と無関係である。

エ：入力データの欠落を見逃す。

総合解説：CAATではデータ取得プロセス自体が監査品質に影響するため、抽出元・条件・件数・ハッシュ等を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0058

予備調査・本調査事例 > 監査技法・CAAT・サンプリング | 難易度：標準

【事例】監査対象の取引は月末に集中し、月初は少ない。単純に年間先頭100件を抽出した場合の主な問題はどれか。

- ア．100件という数は必ず多すぎる
- イ．時期に偏ったサンプルとなり、母集団全体を適切に代表しない可能性がある
- ウ．先頭データは監査証拠にならない
- エ．月末取引は監査対象外である

答え・解説

正答：イ

ア：適切な件数はリスク等で変わる。

イ：取引分布を考慮せず抽出すると選択バイアスが生じる。

ウ：証拠になり得るが代表性が問題である。

エ：むしろ重要な場合がある。

総合解説：期間や拠点、取引種類に偏りがある母集団では、層化や無作為抽出などを検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0059

予備調査・本調査事例 > 監査技法・CAAT・サンプリング | 難易度：応用

【事例】AIを用いて監査文書を分類したところ、重要契約を『低リスク』に誤分類していた。最も適切な対応はどれか。

- ア．AI分類結果を無条件に採用する
- イ．AIの利用履歴を削除する
- ウ．分類ロジック・入力データ・評価基準を検証し、重要文書は人によるレビューを含む補完統制を設ける
- エ．重要契約を監査対象から外す

答え・解説

正答：ウ

ア：誤分類が確認されている。

イ：原因分析と再現性を失う。

ウ：AI利用時は出力誤りを前提に検証・レビューを組み込む必要がある。

エ：監査リスクを高める。

総合解説：AIは大量資料の一次分析に有効だが、分類精度、再現性、機密性、人による検証を統制する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0060

予備調査・本調査事例 > 監査技法・CAAT・サンプリング | 難易度：応用

【事例】サンプル10件中2件で承認漏れが見つかった。最も適切な次の対応はどれか。

- ア．20%の不備率と確定し全母集団にそのまま適用する
- イ．2件だけなので必ず無視する
- ウ．残り8件の証拠を破棄する
- エ．逸脱の性質と原因を確認し、必要に応じサンプル拡大や追加手続を行って母集団への影響を評価する

答え・解説

正答：エ

ア：抽出方法やサンプル数を考慮する必要がある。

イ：重大な統制逸脱かもしれない。

ウ：監査調書の完全性を損なう。

エ：少数サンプルの例外を直ちに全体へ一般化せず、監査リスクに応じ追加評価する。

総合解説：逸脱率だけでなく、逸脱の原因、重要性、意図性、母集団特性を考慮して追加検証する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0061

証拠・判断・調書事例 > 監査証拠の十分性・適切性 | 難易度：基礎

【事例】監査人はアクセス権レビューが行われたか確認するため、担当者の口頭説明だけを得た。監査証拠としての評価はどれか。

- ア．関連性はあるが、重要な結論を支えるには証拠の十分性・適切性が不足する可能性が高い
- イ．口頭説明だけで常に十分である
- ウ．口頭説明は一切監査証拠にならない
- エ．役職が高ければ無条件に最も信頼できる

答え・解説

正答：ア

ア：口頭説明は監査証拠になり得るが、重要統制については承認記録・レビュー結果等で裏付ける必要がある。

イ：重要な監査判断には客観的な裏付けが必要な場合が多い。

ウ：インタビュー結果も監査証拠の一部になり得る。

エ：役職だけで証拠品質は決まらない。

総合解説：証拠の量だけでなく、関連性・信頼性・独立性・直接性を総合的に評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0062

証拠・判断・調書事例 > 監査証拠の十分性・適切性 | 難易度：基礎

【事例】委託先が自社作成したセキュリティ自己評価表を提出した。監査証拠として最も適切な扱いはどれか。

- ア．自己評価表だけで全統制を有効と判断する
- イ．参考証拠として利用しつつ、第三者保証報告やログ等で重要項目を裏付ける
- ウ．自己評価表は必ず虚偽なので破棄する
- エ．評価表の提出日だけで有効性を判断する

答え・解説

正答：イ

ア：証拠源が偏っている。

イ：自己評価は有用だが、作成者の利害関係を踏まえて証拠の信頼性を評価する必要がある。

ウ：証拠の一つとして利用できる。

エ：内容と裏付けが重要である。

総合解説：監査人は証拠の作成主体、取得方法、内部統制の有効性などを踏まえ信頼性を判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0063

証拠・判断・調査事例 > 監査証拠の十分性・適切性 | 難易度：基礎

【事例】監査人自身が本番設定画面を直接確認し、設定値を取得した。対象部門が後から作成した説明資料と比べた証拠上の特徴として最も適切なものはどれか。

- ア．直接取得した証拠は必ず誤りがない
- イ．説明資料は一切使えない
- ウ．監査人が直接取得した証拠であり、一般に説明資料より信頼性が高いと考えやすい
- エ．設定画面は監査証拠にならない

答え・解説

正答：ウ

ア：取得方法や対象時点の確認は必要である。

イ：他証拠と組み合わせて利用できる。

ウ：監査人が直接観察・取得した証拠は、対象部門の説明だけより信頼性が高いことが多い。

エ：適切に取得・記録すれば証拠になり得る。

総合解説：証拠の信頼性は独立性、直接性、真正性、取得手順等で変わる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0064

証拠・判断・調査事例 > 監査証拠の十分性・適切性 | 難易度：標準

【事例】バックアップ復元可能性を確認する監査で、バックアップ成功ログ100件を入手したが復元テスト記録はなかった。最も適切な評価はどれか。

- ア．100件あるので復元可能性も証明できる
- イ．ログは多いほど全ての監査要点を証明できる
- ウ．復元テストは監査と無関係である
- エ．バックアップ取得の証拠はあるが、復元可能性という監査要点を裏付ける証拠としては不十分である

答え・解説

正答：エ

ア：取得成功と復元成功は異なる。

イ：関連性が必要である。

ウ：事業継続の重要な統制である。

エ：監査証拠は量が多くても、監査目的との関連性がなければ十分な根拠にならない。

総合解説：十分性は量、適切性は質・関連性の側面があり、監査要点に直接対応する証拠が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0065

証拠・判断・調査事例 > 監査証拠の十分性・適切性 | 難易度：標準

【事例】システム変更100件の母集団から無作為に30件を抽出し、全件で承認証拠を確認した。監査証拠の評価として最も適切なものはどれか。

ア：承認統制の運用を評価する証拠として有用だが、サンプル設計と母集団の完全性も確認する必要がある

イ：30件全て適切なら母集団全体に絶対に不備はない

ウ：サンプルなので監査証拠として使えない

エ：無作為抽出なら母集団確認は不要

答え・解説

正答：ア

ア：サンプル結果の有用性は、母集団・抽出方法・統制頻度等に依存する。

イ：サンプリングリスクは残る。

ウ：適切に設計すれば利用できる。

エ：母集団自体が完全である必要がある。

総合解説：サンプル結果は抽出設計・母集団・例外率を踏まえて評価し、必要に応じ追加手続を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0066

証拠・判断・調査事例 > 監査証拠の十分性・適切性 | 難易度：標準

【事例】監査対象部門から提供されたExcel集計表の元データが確認できない。重要な指摘の根拠として使う場合の最も適切な対応はどれか。

ア：Excel形式なら自動的に信頼できるとする

イ：元データ・計算式・集計条件を確認し、集計結果の完全性と正確性を検証する

ウ：見た目が整っていれば十分とする

エ：元データがないまま重大指摘を確定する

答え・解説

正答：イ

ア：形式は信頼性を保証しない。

イ：二次加工された資料は生成過程を確認しなければ証拠の信頼性を評価できない。

ウ：内容の完全性・正確性が重要である。

エ：根拠が弱い。

総合解説：監査証拠として利用する資料は、作成過程、元データ、計算ロジックを必要に応じ検証する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0067

証拠・判断・調書事例 > 監査証拠の十分性・適切性 | 難易度：標準

【事例】二つの独立した証拠が同じ事実を示している。一つは外部サービス事業者の公式ログ、もう一つは社内担当者の説明である。最も適切な判断はどれか。

- ア：証拠が二つあれば内容に関係なく必ず十分
- イ：外部ログと説明が一致しても意味はない
- ウ：異なる情報源の証拠が整合しているため、単一の説明だけより結論の裏付けは強くなる
- エ：社内説明があるので外部ログは不要

答え・解説

正答：ウ

ア：質と関連性の評価も必要である。

イ：相互補強の効果がある。

ウ：複数の独立した証拠が一致すると監査判断の説得力が高まる。

エ：重要事項は複数証拠の整合確認が有用である。

総合解説：異なる取得方法・情報源の証拠を組み合わせることで、誤りや偏りのリスクを低減できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0068

証拠・判断・調書事例 > 監査証拠の十分性・適切性 | 難易度：標準

【事例】監査対象期間は4～9月だが、提出されたアクセスレビュー記録は10月分だけだった。最も適切な評価はどれか。

- ア：10月分があれば4～9月も有効だったとみなす
- イ：最新記録なので常に最も適切である
- ウ：アクセスレビュー記録は不要
- エ：対象期間の統制運用を裏付ける証拠としては適合性が不足しており、期間内の記録を追加取得する必要がある

答え・解説

正答：エ

ア：時期が異なるため直接裏付けられない。

イ：監査対象期間への関連性が重要である。

ウ：運用有効性を確認する重要証拠である。

エ：証拠は監査対象期間と対応している必要がある。

総合解説：監査証拠の適切性には、監査対象・期間・監査要点への関連性が含まれる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0069

証拠・判断・調書事例 > 監査証拠の十分性・適切性 | 難易度：応用

【事例】重要なログの真正性が争われている。監査人が追加確認すべき事項として最も適切なものはどれか。

- ア．ログ生成元、アクセス権、改ざん防止、取得手順、ハッシュ等を確認する
- イ．ログのファイル名だけ確認する
- ウ．印刷して紙にすれば真正性が保証される
- エ．対象部門が本物と言えれば追加確認しない

答え・解説

正答：ア

ア：電子証拠は真正性・完全性を評価することで監査判断の信頼性を高める。
イ：容易に変更でき真正性を保証しない。
ウ：元データの真正性は別途確認が必要である。
エ：重要な争点では客観的確認が必要である。
総合解説：重要な電子証拠では生成・保存・取得プロセスを確認し、改ざんリスクを評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0070

証拠・判断・調書事例 > 監査証拠の十分性・適切性 | 難易度：応用

【事例】監査結論を支える証拠が一部不足しているが、報告期限が迫っている。最も適切な対応はどれか。

- ア．期限優先で推測を事実として報告する
- イ．追加手続の必要性を評価し、必要な証拠が得られない場合は結論の範囲・表現への影響を明確にする
- ウ．証拠不足を隠して通常どおり断定する
- エ．監査調書から不足の記録を削除する

答え・解説

正答：イ

ア：監査品質を損なう。
イ：期限を理由に根拠不足の結論を断定してはならない。
ウ：報告利用者を誤解させる。
エ：品質管理に反する。
総合解説：監査人は合理的根拠を得るまで必要な手続を行い、範囲制約が残る場合はその影響を適切に扱う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0071

証拠・判断・調査事例 > 事実・判断・指摘の切り分け | 難易度：基礎

【事例】監査で『承認記録が10件中2件存在しなかった』ことを確認した。これはどれに該当するか。

- ア．監査人の判断
- イ．改善提案
- ウ．監査で確認した事実
- エ．原因の確定

答え・解説

正答：ウ

ア：評価基準に照らした結論ではなく事実そのものである。

イ：対策を示していない。

ウ：客観的に確認した状態をそのまま示しており、評価や推測を含んでいない。

エ：記録がない理由はまだ示されていない。

総合解説：科目B-1では、事実、評価、原因、指摘、改善提案を混同しないことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0072

証拠・判断・調査事例 > 事実・判断・指摘の切り分け | 難易度：基礎

【事例】『承認記録が10件中2件存在しないため、変更管理規程への準拠が確認できない』という記述はどれに最も近いか。

- ア．単なる事実の列挙
- イ．改善提案
- ウ．将来予測
- エ．確認事実を評価基準に照らした監査人の判断

答え・解説

正答：エ

ア：規程への準拠性という評価を含んでいる。

イ：改善方法は示していない。

ウ：現在の統制状況を評価している。

エ：事実と規程という評価基準を結び付けて監査上の意味を示している。

総合解説：監査人は確認した事実を評価基準と比較し、リスク・影響を踏まえて指摘事項を形成する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0073

証拠・判断・調査事例 > 事実・判断・指摘の切り分け | 難易度：基礎

【事例】承認記録がなかった理由について担当者が『忙しかったからだと思う』と説明した。最も適切な扱いはどれか。

- ア．原因仮説として記録し、事実として確定する前に追加証拠を確認する
- イ．忙しさが原因と確定して報告する
- ウ．担当者の説明なので必ず真実とする
- エ．説明は監査調書へ残してはいけない

答え・解説

正答：ア

ア：担当者の推測は原因を示す手掛かりだが、確定事実とは区別する必要がある。

イ：裏付けがない。

ウ：証拠評価が必要である。

エ：仮説として記録し追加確認に利用できる。

総合解説：監査調書では、確認事実、情報源、監査人の仮説、追加確認結果を分けて記録する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0074

証拠・判断・調査事例 > 事実・判断・指摘の切り分け | 難易度：標準

【事例】監査人が『この部門はセキュリティ意識が低い』と指摘した。問題点として最も適切なものはどれか。

- ア．文章が短いこと
- イ．抽象的な評価で、どの事実・基準・影響に基づく指摘が不明確である
- ウ．セキュリティという用語を使ったこと
- エ．部門を監査対象にしたこと

答え・解説

正答：イ

ア：長さではなく根拠の具体性が問題である。

イ：指摘事項は具体的な事実と評価基準に基づいて記述する必要がある。

ウ：用語自体は問題ない。

エ：適切な監査対象になり得る。

総合解説：『意識が低い』ではなく、教育未受講率、手順逸脱、報告遅延など具体的事実を示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0075

証拠・判断・調査事例 > 事実・判断・指摘の切り分け | 難易度：標準

【事例】監査人は『未承認変更が1件あったので、変更管理は全く機能していない』と結論付けた。最も適切な評価はどれか。

- ア．一件でも逸脱があれば必ず全統制無効である
- イ．未承認変更は一切評価しなくてよい
- ウ．一件の逸脱から統制全体の無効を断定するのは飛躍があり、逸脱の重要性・原因・他の運用実績を評価すべきである
- エ．変更管理規程自体を削除すべき

答え・解説

正答：ウ

ア：統制評価には性質・頻度・重要性を考慮する。

イ：重要な逸脱である可能性がある。

ウ：監査判断は証拠の範囲を超えて一般化してはならない。

エ：事例から導けない。

総合解説：確認事実から導ける範囲で判断し、全体評価に必要な追加証拠を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0076

証拠・判断・調査事例 > 事実・判断・指摘の切り分け | 難易度：標準

【事例】指摘事項として『退職者IDが3件残存していた。不要アカウントが不正利用される可能性がある』と記載した。構成として最も適切な評価はどれか。

- ア．事実がなく推測だけで構成されている
- イ．改善提案まで既に含まれている
- ウ．監査対象範囲が必ず不明である
- エ．確認事実とリスク影響が区別されており、指摘として理解しやすい

答え・解説

正答：エ

ア：退職者ID3件という事実がある。

イ：対策は示していない。

ウ：記載例だけからはその問題を断定できない。

エ：何が起きているかと、その結果どのようなリスクがあるかを分けている。

総合解説：指摘は事実、評価基準、原因、影響を必要に応じ整理し、改善提案とは区別する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0077

証拠・判断・調査事例 > 事実・判断・指摘の切り分け | 難易度：標準

【事例】『ログ保存期間は1か月であった』という事実に対し、『短すぎる』と評価したい。監査人が先に確認すべきものはどれか。

- ア．法令・契約・社内規程・監査目的に基づく必要保存期間
- イ．ログファイルの名前
- ウ．監査担当者の好み
- エ．他社の最長保存期間だけ

答え・解説

正答：ア

ア：評価基準がなければ『短すぎる』という判断の根拠がない。

イ：保存期間の適否を判断できない。

ウ：客観的基準ではない。

エ：参考にはなるが自組織の必須基準とは限らない。

総合解説：事実と指摘の間には、何に照らして問題なのかという評価基準が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0078

証拠・判断・調査事例 > 事実・判断・指摘の切り分け | 難易度：標準

【事例】監査報告案に『担当者Xが不正を行った』と記載されているが、確認できたのはXのIDで異常操作があったことだけである。最も適切な修正はどれか。

- ア．そのままX本人の不正と断定する
- イ．『XのIDで異常操作が記録されていた』という事実と、実行者の特定は別問題として記載する
- ウ．異常操作の事実も削除する
- エ．Xの性格を指摘に追加する

答え・解説

正答：イ

ア：証拠の範囲を超える。

イ：ID利用記録だけでは本人が操作したと確定できない場合がある。

ウ：確認できた事実は適切に記録する。

エ：監査証拠と無関係である。

総合解説：不正調査ではアカウント利用事実、端末、認証、物理記録等を組み合わせ、実行者特定の根拠を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0079

証拠・判断・調査事例 > 事実・判断・指摘の切り分け | 難易度：応用

【事例】監査人は改善提案として『MFAを導入する』と記載したが、指摘事項は『退職者IDの削除遅延』であった。最も適切な評価はどれか。

- ア．MFAは常に最良の改善策なので問題ない
- イ．改善提案は指摘事項と関係なくてもよい
- ウ．指摘の原因・リスクに対する改善提案として直接性が弱く、ID無効化プロセス等を優先して検討すべきである
- エ．退職者IDはアクセス管理と無関係である

答え・解説

正答：ウ

ア：対象リスクへの適合性が重要である。

イ：有益性と説得力が低下する。

ウ：改善提案は指摘された問題と原因に対応している必要がある。

エ：重要なアクセス管理論点である。

総合解説：事実→評価→原因・影響→改善提案の論理がつながっていることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0080

証拠・判断・調査事例 > 事実・判断・指摘の切り分け | 難易度：応用

【事例】監査人は指摘事項を強く見せるため、実際には2件だった例外を『多数発生』と記載した。最も重大な問題はどれか。

- ア．表現が短いこと
- イ．数字を文章に置き換えたこと自体
- ウ．例外を指摘したこと
- エ．監査証拠に基づかない誇張であり、客観性と報告の信頼性を損なう

答え・解説

正答：エ

ア：本質ではない。

イ：正確な意味を保てば問題ない。

ウ：根拠のある指摘自体は適切である。

エ：監査報告は事実に忠実でなければならない。

総合解説：指摘事項は証拠で確認した事実を正確に記載し、印象操作や過度な一般化を避ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0081

証拠・判断・調書事例 > 監査調書・根拠の記録 | 難易度：基礎

【事例】監査調書に『アクセス権を確認した。問題なし』とだけ記載されている。最も大きな問題はどれか。

- ア．何をどの資料・手続で確認し、どの証拠から結論を得たか追跡できない
- イ．文章が短いことだけが問題
- ウ．アクセス権を監査したこと
- エ．問題なしという結論自体が必ず誤り

答え・解説

正答：ア

ア：監査調書は監査手続・証拠・判断過程を第三者が追跡できる必要がある。
イ：短くても必要事項があればよい。
ウ：重要な監査対象である。
エ：根拠が不明なのが問題である。
総合解説：調書には対象、期間、実施手続、証拠、例外、判断、作成者・日付等を残す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0082

証拠・判断・調書事例 > 監査調書・根拠の記録 | 難易度：基礎

【事例】インタビュー調書に記録すべき事項として最も適切なものはどれか。

- ア．監査人の感想だけ
- イ．実施日時、対象者、質問・回答の要旨、関連証拠、監査人の評価
- ウ．対象者名を一切残さない
- エ．都合のよい回答だけを抜粋する

答え・解説

正答：イ

ア：客観的な記録にならない。
イ：情報源と内容を明確にし、事実と監査人の判断を区別できるようにする。
ウ：情報源を追跡できない。
エ：客観性を損なう。
総合解説：口頭情報も、誰から何を確認したかを記録して他証拠との関係を明示する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0083

証拠・判断・調査事例 > 監査調書・根拠の記録 | 難易度：基礎

【事例】CAATで例外抽出を実施した。監査調書へ記録すべき事項として最も適切なものはどれか。

- ア．例外件数だけ
- イ．ツール名だけ
- ウ．元データ、抽出条件・ロジック、実行日、結果、追加確認、結論への反映
- エ．最終結論だけ

答え・解説

正答：ウ

ア：分析条件や母集団を確認できない。

イ：どのように結果が得られたか不明である。

ウ：再現性とレビュー可能性を確保するため、分析プロセス全体を記録する。

エ：立証プロセスを追跡できない。

総合解説：電子的な監査手続でも、入力・処理・出力と監査判断の対応を調書に残す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0084

証拠・判断・調査事例 > 監査調書・根拠の記録 | 難易度：標準

【事例】監査手続書ではサンプル30件を確認予定だったが、実際には40件確認した。最も適切な調書記録はどれか。

- ア．予定30件だけ記録し実績は隠す
- イ．40件確認した事実だけで理由は不要
- ウ．サンプル数は調書に不要
- エ．予定30件と実績40件、追加した理由、抽出方法、結果を記録する

答え・解説

正答：エ

ア：実際の監査内容と調書が不一致になる。

イ：追加手続の背景も重要である。

ウ：監査証拠の十分性評価に必要である。

エ：計画と実績の差異を残すことで追加手続の妥当性をレビューできる。

総合解説：監査手続書・調書には実施日、担当者、実作業内容、追加手続、関連調書番号等を残す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0085

証拠・判断・調査事例 > 監査調書・根拠の記録 | 難易度：標準

【事例】重要な指摘について、調書には証拠ファイル名だけが記載され、どの箇所が根拠が不明である。最も適切な改善はどれか。

- ア：証拠の該当ページ・レコード・ログ時刻等を明示し、指摘との対応関係を記録する
- イ：ファイル名があれば十分とする
- ウ：証拠ファイルを削除する
- エ：指摘事項を口頭で説明するだけにする

答え・解説

正答：ア

ア：証拠参照を具体化することでレビュー時の追跡性が高まる。

イ：大量資料では根拠箇所を特定できない。

ウ：監査意見の裏付けを失う。

エ：文書化された監査証拠が必要である。

総合解説：調書と証拠、指摘、報告書を相互参照できるようにすることで、結論形成プロセスを追跡できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0086

証拠・判断・調査事例 > 監査調書・根拠の記録 | 難易度：標準

【事例】監査調書のレビューで、結論と証拠が矛盾していることが分かった。レビュー担当者の最も適切な対応はどれか。

- ア：結論に合わせて証拠を書き換える
- イ：担当者へ根拠の再確認と必要な追加手続を求め、解消するまで結論を確定しない
- ウ：矛盾を無視して承認する
- エ：調書を削除して報告書だけ残す

答え・解説

正答：イ

ア：証拠改ざんに当たる不適切な行為である。

イ：レビューは論理の飛躍や証拠不足を発見し監査品質を確保するために行う。

ウ：監査品質を損なう。

エ：監査意見の裏付けを失う。

総合解説：レビューでは監査目的→手続→証拠→判断→結論が論理的につながっているか確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0087

証拠・判断・調書事例 > 監査調書・根拠の記録 | 難易度：標準

【事例】電子監査調書を複数担当者が共有フォルダで自由に上書きできる。最も重要な問題はどれか。

- ア．共有フォルダを使うこと自体が必ず禁止
- イ．電子調書は紙より必ず信頼性が低い
- ウ．変更履歴と版管理が不十分で、誰がいつ何を変更したか追跡できない
- エ．ファイル数が増えることだけが問題

答え・解説

正答：ウ

ア：適切なアクセス・版管理があれば利用できる。

イ：管理方法による。

ウ：監査調書は監査意見の裏付けであるため、完全性と追跡性を確保する必要がある。

エ：本質は変更統制である。

総合解説：電子調書ではアクセス制御、版管理、変更履歴、バックアップ、保存期間、秘密保持を管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0088

証拠・判断・調書事例 > 監査調書・根拠の記録 | 難易度：標準

【事例】監査終了後、担当者が個人PCに監査調書のコピーを残していた。最も適切な評価はどれか。

- ア．担当者が作成したので自由に保有できる
- イ．個人PCならアクセス制御は不要
- ウ．監査終了後は調書を全て削除すべき
- エ．組織の文書管理・秘密保持ルールに反する可能性があり、認可された保管場所へ集約すべきである

答え・解説

正答：エ

ア：調書は組織の監査記録として管理する。

イ：漏えい・紛失リスクがある。

ウ：保存期間・文書管理規程に従う必要がある。

エ：監査調書には機密情報が含まれるため、組織的な保管管理が必要である。

総合解説：システム監査人は監査調書を組織の文書管理規程に従い体系的に整理・保管し、権限者だけが利用できるようにする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0089

証拠・判断・調査事例 > 監査調書・根拠の記録 | 難易度：応用

【事例】ある指摘事項について、予備調査時の仮説は『教育不足』だったが、本調査ではシステム設定不備が主因と判明した。調書への最も適切な記録はどれか。

- ア：当初仮説、追加手続、本調査で得た証拠、仮説を修正した判断過程を記録する
- イ：最終原因だけを書き、当初仮説と検証過程を全て消す
- ウ：当初仮説に合わせて証拠を解釈する
- エ：仮説が外れたので調書を作らない

答え・解説

正答：ア

ア：監査の結論に至る過程を残すことが監査調書の重要な役割である。

イ：判断過程を追跡できなくなる。

ウ：確証バイアスになる。

エ：検証過程こそ重要な監査記録である。

総合解説：調書には監査人がどのような情報から仮説を立て、どの手続で検証し、なぜ結論を変更したかを残す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0090

証拠・判断・調査事例 > 監査調書・根拠の記録 | 難易度：応用

【事例】監査報告書の指摘Aについて、関連する調書番号がどこにも記載されていない。最も適切な改善はどれか。

- ア：報告書だけ保存し調書は廃棄する
- イ：報告書の重要な指摘から対応する監査調書・証拠へ追跡できる参照関係を設定する
- ウ：指摘Aを口頭説明だけに変更する
- エ：調書番号をランダムに付ける

答え・解説

正答：イ

ア：根拠を失う。

イ：監査報告と監査調書が結び付いていることで、指摘の合理的根拠をレビューできる。

ウ：報告書の信頼性を高めない。

エ：実際の根拠との対応が必要である。

総合解説：重要な指摘事項は、監査手続、証拠、判断、報告書の間を双方向に追跡できることが望ましい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0091

報告・改善・フォローアップ事例 > 総合評価・指摘事項 | 難易度：基礎

【事例】アクセス権監査で、退職者ID3件と異動後も残った高権限2件を確認した。総合評価として最も適切なものはどれか。

- ア．5件の例外があったので全アクセス制御は完全に無効である
- イ．退職者IDだけが問題で、異動後権限は評価不要である
- ウ．利用者ライフサイクルに連動した権限削除・見直しが十分に機能しておらず、不要権限が残存するリスクがある
- エ．例外が5件だけなので総合評価では無視する

答え・解説

正答：ウ

ア：一部例外から全統制無効を直ちに断定するのは過度な一般化である。

イ：どちらも利用者ライフサイクル管理の不備として関連する。

ウ：個別事象を列挙するだけでなく、共通する統制上の弱点へまとめている。

エ：重要性・権限レベル・原因を評価する必要がある。

総合解説：科目B-1では、事実を単に並べず、監査目的に照らして共通原因・影響・統制の有効性をまとめることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0092

報告・改善・フォローアップ事例 > 総合評価・指摘事項 | 難易度：基礎

【事例】変更管理監査で100件中1件の未承認変更を発見したが、その1件は基幹システムの税計算ロジック変更だった。指摘の重要性判断として最も適切なものはどれか。

- ア．1%なので自動的に軽微とする
- イ．基幹システムなので自動的に最重大とする
- ウ．未承認変更は全て同じ重要度とする
- エ．件数だけで軽微とせず、変更内容の重要性・影響範囲・原因を踏まえて重大性を評価する

答え・解説

正答：エ

ア：少数でも影響が大きければ重大な指摘となり得る。

イ：変更の実際の影響、原因、補完統制も確認する必要がある。

ウ：対象・影響・発生状況により重要度は異なる。

エ：重要性は例外率だけでなく、対象の重要性や潜在影響を考慮する。

総合解説：監査では発生頻度、業務影響、法令影響、統制の回避可能性などを総合して指摘の重要度を判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0093

報告・改善・フォローアップ事例 > 総合評価・指摘事項 | 難易度：基礎

【事例】監査報告案に『バックアップ統制は有効』とあるが、取得成功は確認したものの復元試験は未実施だった。最も適切な修正はどれか。

ア．バックアップ取得は確認できたが、復元可能性は未確認であり、復旧統制の有効性については限定して評価する

イ．取得成功だけで復旧統制全体を有効と断定する

ウ．復元試験がないのでバックアップ取得事実も否定する

エ．結論を空欄にして一切報告しない

答え・解説

正答：ア

ア：証拠で確認できた範囲と未確認部分を分けて結論を表現する必要がある。

イ：復元可能性を確認していない。

ウ：確認済みの事実まで否定するのは不適切である。

エ：確認できた範囲と制約を明確に報告できる。

総合解説：総合評価は証拠の十分性・適切性に対応し、未確認事項をあたかも確認済みのように表現しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0094

報告・改善・フォローアップ事例 > 総合評価・指摘事項 | 難易度：標準

【事例】監査で『SLAの重大障害通知30分以内』に対し3件すべて2時間以上かかっていた。指摘事項の書き方として最も適切なものはどれか。

ア．委託先の対応はひどい

イ．直近3件の重大障害はいずれも通知がSLAの30分を超過しており、利用者側の初動が遅れるおそれがある

ウ．障害通知に問題があるようだ

エ．SLA違反なので委託契約は全て無効である

答え・解説

正答：イ

ア：感情的で具体性と客観性に欠ける。

イ：事実、評価基準、影響を具体的に示している。

ウ：件数・基準・影響が不明確である。

エ：契約全体の法的効力まで断定できない。

総合解説：指摘事項は何が起き、どの基準に反し、どのような影響があるかを証拠に基づいて明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0095

報告・改善・フォローアップ事例 > 総合評価・指摘事項 | 難易度：標準

【事例】複数部門で同じ『権限レビュー未実施』が確認された。最も適切な総合評価はどれか。

- ア．各部門の担当者個人だけを原因と断定する
- イ．一部門だけ代表して指摘し他は無視する
- ウ．部門固有の問題だけでなく、全社的な権限レビューの仕組み・責任分担に共通不備がないか評価する
- エ．件数が多いので原因調査は不要とする

答え・解説

正答：ウ

ア：共通する仕組みの問題を見逃す可能性がある。

イ：横断的リスクを過小評価する。

ウ：横断的に同じ不備が発生している場合、共通原因や全社統制の問題を疑うべきである。

エ：共通原因分析が重要である。

総合解説：同種不備が複数組織で発生する場合、方針、責任、システム設定、教育、モニタリングなど共通統制を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0096

報告・改善・フォローアップ事例 > 総合評価・指摘事項 | 難易度：標準

【事例】AI利用監査で、誤出力は発生していたが全件人手レビューで修正され、外部影響はなかった。総合評価として最も適切なものはどれか。

- ア．外部影響がないのでAI統制は完全に有効である
- イ．誤出力があるので人手レビューの効果は無関係である
- ウ．AI利用を即時全面禁止すべきと結論する
- エ．AI出力自体には品質課題がある一方、人手レビューは補完統制として機能しており、双方の持続性を評価する必要がある

答え・解説

正答：エ

ア：誤出力自体のリスクは残る。

イ：補完統制として重要である。

ウ：リスクと統制の実態を踏まえて改善策を検討する必要がある。

エ：一つの統制不備だけで全体を評価せず、補完統制を含めて総合的に判断する。

総合解説：監査では一つの不備と他の統制の関係を見て、最終的な残存リスクを評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0097

報告・改善・フォローアップ事例 > 総合評価・指摘事項 | 難易度：標準

【事例】監査人は『障害が発生した』という事実だけで運用管理全体を不適切と評価した。最も適切な見直しはどれか。

- ア．障害の原因、検知、対応、復旧、再発防止の統制を確認し、運用管理全体への影響を判断する
- イ．障害が一度でも起きれば運用統制は無効とする
- ウ．障害が復旧したので監査不要とする
- エ．障害件数だけで総合評価する

答え・解説

正答：ア

ア：障害発生そのものと統制不備は同義ではない。

イ：障害を適切に検知・対応・復旧することも運用統制の目的である。

ウ：原因・再発防止を評価する必要がある。

エ：内容・重要性・対応状況を考慮する必要がある。

総合解説：監査では事故の有無だけでなく、予防・検知・対応・復旧の仕組みが有効に機能したかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0098

報告・改善・フォローアップ事例 > 総合評価・指摘事項 | 難易度：標準

【事例】指摘事項の原因として『教育不足』と記載したが、教育受講状況は確認していない。最も適切な対応はどれか。

- ア．教育不足と断定したまま報告する
- イ．原因は未確定として扱い、教育記録や手順理解度等を追加確認してから原因分析を確定する
- ウ．原因分析は不要なので削除する
- エ．担当者の性格を原因として追加する

答え・解説

正答：イ

ア：根拠不足である。

イ：証拠のない推測を事実として指摘に含めてはならない。

ウ：重要指摘では原因分析が改善提案に役立つ。

エ：監査証拠に基づかない。

総合解説：指摘は確認事実、評価、原因、影響を区別し、原因には必要な裏付けを取る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0099

報告・改善・フォローアップ事例 > 総合評価・指摘事項 | 難易度：応用

【事例】監査結果には5件の指摘がある。経営層向けの総合評価で最も適切な表現はどれか。

- ア．5件の全文をそのまま読み上げる
- イ．件数だけ報告する
- ウ．5件を重要度と共通原因で整理し、経営目標への影響と優先対応領域を要約する
- エ．最も軽微な指摘だけ説明する

答え・解説

正答：ウ

ア：総合評価としての要約・優先順位が不足する。

イ：重要性や影響を理解できない。

ウ：経営層向けには個別詳細より、重要リスクと全体像を分かりやすく示す。

エ：重要リスクを隠すことになる。

総合解説：総合評価では重要度、影響、共通原因、改善優先度を整理し、監査目的に対する結論を示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0100

報告・改善・フォローアップ事例 > 総合評価・指摘事項 | 難易度：応用

【事例】監査対象部門は指摘内容には同意しているが、『表現が強すぎる』と修正を求めた。最も適切な対応はどれか。

- ア．対象部門の希望どおり全て削除する
- イ．一切の修正を拒否する
- ウ．証拠を変えて表現に合わせる
- エ．証拠と重要性に照らして表現の正確性・明瞭性を見直し、必要なら修正するが、内容を弱めるためだけの変更はしない

答え・解説

正答：エ

ア：監査の独立性を損なう。

イ：より正確で誤解のない表現へ改善できる場合がある。

ウ：監査証拠の改変は不適切である。

エ：報告表現は公正・明瞭であるべきだが、対象部門の都合で事実を歪めてはならない。

総合解説：事実確認と表現改善のための意見交換は有用だが、最終判断は証拠と監査基準に基づく。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0101

報告・改善・フォローアップ事例 > 改善提案・実現可能性 | 難易度：基礎

【事例】退職者IDの削除遅延に対する改善提案として最も適切なものはどれか。

- ア．人事の退職情報をアカウント管理へ連携し、退職日を基準に自動又は期限管理で無効化し、例外をレビューする
- イ．全利用者へMFAを導入するだけ
- ウ．ID名称を短くする
- エ．退職者IDを別フォルダへ一覧化するだけ

答え・解説

正答：ア

ア：指摘の原因とリスクに直接対応し、実施後の確認も可能な提案である。

イ：退職者IDの残存自体を解消しない。

ウ：削除遅延とは関係しない。

エ：無効化されなければリスクは残る。

総合解説：改善提案は問題の原因とリスクを踏まえ、再発防止に直結する具体策とする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0102

報告・改善・フォローアップ事例 > 改善提案・実現可能性 | 難易度：基礎

【事例】小規模組織では職務分掌を完全に分離できない。監査人の改善提案として最も適切なものはどれか。

- ア．人員制約を無視して全ての職務を完全分離するよう要求する
- イ．分離できない競合権限について、独立責任者による事後レビューや詳細ログ監視など代替統制を設ける
- ウ．職務分掌を全面廃止する
- エ．全員へ管理者権限を付与する

答え・解説

正答：イ

ア：実現可能性が低い。

イ：実現困難な理想論ではなく、組織制約を踏まえたリスク低減策である。

ウ：不正・誤りリスクを高める。

エ：リスクをさらに高める。

総合解説：改善提案ではリスク低減効果と費用・人員・運用制約を考慮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0103

報告・改善・フォローアップ事例 > 改善提案・実現可能性 | 難易度：基礎

【事例】老朽システムの脆弱性を解消するには全面更改が必要だが、完了まで2年かかる。最も適切な改善提案はどれか。

- ア．2年間何もせず更改完了を待つ
- イ．本番システムを直ちに無計画停止する
- ウ．更改計画を進めつつ、完了までアクセス制限・監視強化・ネットワーク分離等の暫定統制を実施する
- エ．脆弱性情報を非公開にして問題をなくす

答え・解説

正答：ウ

ア：高リスクが継続する。

イ：事業継続への影響を考慮していない。

ウ：長期施策だけでは残存リスクが放置されるため、短期の代替策を組み合わせる。

エ：リスクは残る。

総合解説：改善策は実現時期を考慮し、重大リスクには暫定統制と恒久対策を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0104

報告・改善・フォローアップ事例 > 改善提案・実現可能性 | 難易度：標準

【事例】SLA違反が続く委託先に対し、監査人が『直ちに契約解除』だけを提案した。最も適切な評価はどれか。

- ア．契約解除は監査で絶対に提案してはならない
- イ．SLA違反は必ず無視すべきである
- ウ．事業継続は改善提案と関係しない
- エ．違反の重要性、代替事業者、移行期間、事業継続への影響を評価せず、実現可能性の検討が不足している

答え・解説

正答：エ

ア：状況によっては選択肢となり得る。

イ：契約準拠上の重要問題である。

ウ：外部サービス切替では重要な制約である。

エ：改善提案はリスク低減だけでなく、事業への副作用や実行可能性も考慮する必要がある。

総合解説：監査人は複数の代替案、費用、期間、移行リスク、残存リスクを比較し、経営判断に役立つ提案を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0105

報告・改善・フォローアップ事例 > 改善提案・実現可能性 | 難易度：標準

【事例】AIの誤出力対策として『全出力を専門家が二重レビューする』案が出たが、1日10万件の処理がある。最も適切な改善案はどれか。

- ア．高リスク出力を自動判定して重点レビューし、モデル品質改善・閾値管理と組み合わせる
- イ．件数に関係なく全件二重レビューだけを必須とする
- ウ．レビューを全廃する
- エ．誤出力を記録しない

答え・解説

正答：ア

ア：全件二重レビューは実行可能性が低いため、リスクベースの統制設計が適切である。

イ：運用負荷が過大で継続困難な可能性がある。

ウ：誤出力リスクを高める。

エ：品質改善に必要な情報を失う。

総合解説：AI利用ではリスク分類、信頼度、重要案件の人手確認、モニタリングを組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0106

報告・改善・フォローアップ事例 > 改善提案・実現可能性 | 難易度：標準

【事例】バックアップ復元試験が未実施である。改善提案として最も適切なものはどれか。

- ア．バックアップ取得回数だけ増やす
- イ．重要システムごとにRTO・RPOを踏まえた復元試験計画を定め、定期実施と結果レビューを行う
- ウ．復元試験を障害発生時だけ実施する
- エ．全システムを同じ復旧時間で扱う

答え・解説

正答：イ

ア：復元可能性の確認にならない。

イ：単に『試験する』だけでなく、事業継続要件に対応した実効性検証へつなげる。

ウ：平時の事前検証が必要である。

エ：重要性に応じた目標設定が必要である。

総合解説：改善提案では、対象・頻度・目標・判定基準・是正まで具体化するとフォローアップしやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0107

報告・改善・フォローアップ事例 > 改善提案・実現可能性 | 難易度：標準

【事例】アクセス権レビューはExcelで手作業しており、対象者1万人のため毎回遅延する。改善提案として最も適切なものはどれか。

- ア．レビュー頻度を無期限に延ばす
- イ．対象者を無作為に100人だけに減らす
- ウ．人事情報と権限データを自動連携し、例外候補を抽出して責任者レビューへ集中させる
- エ．レビュー結果を記録しない

答え・解説

正答：ウ

ア：不要権限の検知遅延が拡大する。

イ：高リスク権限を見逃す可能性がある。

ウ：大量対象では自動化によって完全性と効率性を両立できる。

エ：証跡とフォローアップができない。

総合解説：改善提案は単に作業量を減らすのではなく、リスクカバレッジを維持・向上させる必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0108

報告・改善・フォローアップ事例 > 改善提案・実現可能性 | 難易度：標準

【事例】監査人が特定ベンダ製品名を指定して『この製品を買うべき』と改善提案した。最も適切な見直しはどれか。

- ア．監査人が製品購入契約まで締結する
- イ．改善提案を一切行わない
- ウ．製品名だけを増やして選択肢を列举する
- エ．必要な統制要件と期待効果を示し、製品選定は経営・業務側の責任で比較検討できる形にする

答え・解説

正答：エ

ア：業務執行への過度な関与となる。

イ：助言機能を放棄する必要はない。

ウ：必要要件やリスクとの対応が重要である。

エ：監査人は改善方向を助言できるが、特定製品の業務上の最終選択を代行すべきではない。

総合解説：監査人は統制目的・必要要件・リスク低減効果を示し、意思決定責任は経営側に残す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0109

報告・改善・フォローアップ事例 > 改善提案・実現可能性 | 難易度：応用

【事例】改善策Aは費用100万円でリスクを半減、改善策Bは費用1億円でリスクをほぼゼロにできる。最も適切な監査人の助言はどれか。

- ア．リスク許容度、事業影響、費用対効果を比較し、経営者が合理的に選択できる情報を提示する
- イ．必ず最も高価なBを選ぶ
- ウ．必ず最も安いAを選ぶ
- エ．監査人が経営者に代わり最終決定する

答え・解説

正答：ア

ア：最大対策が常に最善とは限らず、残存リスクとコストを比較する。

イ：過剰統制となる可能性がある。

ウ：リスク許容度を満たさない可能性がある。

エ：リスク受容・投資判断は経営責任である。

総合解説：改善提案では、期待するリスク低減、費用、期間、運用負荷、残存リスクを経営判断に使える形で示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0110

報告・改善・フォローアップ事例 > 改善提案・実現可能性 | 難易度：応用

【事例】監査指摘の改善期限を『できるだけ早く』とだけ設定した。フォローアップしやすくするための最も適切な改善はどれか。

- ア．期限を設定しない
- イ．重要度に応じた具体的期限、責任者、完了条件、必要な証拠を定める
- ウ．全指摘を同じ翌日に設定する
- エ．責任者を複数部門で曖昧にする

答え・解説

正答：イ

ア：改善遅延を管理できない。

イ：曖昧な期限では進捗管理と完了判定ができない。

ウ：実現可能性と重要度を無視している。

エ：説明責任が不明確になる。

総合解説：監査人は改善提案そのものに加え、対象部門の改善計画がSMARTに管理可能か確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0111

報告・改善・フォローアップ事例 > 監査報告・フォローアップ | 難易度：基礎

【事例】監査報告書を経営会議へ提出する。最も適切な構成はどれか。

- ア．監査調書を全てそのまま添付して説明を省略する
- イ．良い点だけを記載する
- ウ．監査目的・範囲・重要な結論・指摘・影響・改善提案を要約し、必要な意思決定事項を明確にする
- エ．監査目的や範囲を記載しない

答え・解説

正答：ウ

ア：詳細が多すぎて重要事項が伝わりにくい。

イ：重要なリスクを隠すことになる。

ウ：報告利用者が監査結果を理解し、対応判断できる構成が重要である。

エ：結論の前提が分からない。

総合解説：科目B-1では、事例から何を経営へ報告すべきかを優先順位付けする力も重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0112

報告・改善・フォローアップ事例 > 監査報告・フォローアップ | 難易度：基礎

【事例】監査対象部門が報告前に新しい証拠を提示し、指摘の前提事実が誤っていたことが判明した。最も適切な対応はどれか。

- ア．一度作成した指摘なので変更しない
- イ．証拠を見ず対象部門の要求どおり削除する
- ウ．監査調書から旧証拠を消して経緯を残さない
- エ．新証拠を検証し、事実誤認であれば指摘と結論を修正する

答え・解説

正答：エ

ア：事実誤認を残すことになる。

イ：新証拠の信頼性を評価する必要がある。

ウ：判断変更の経緯も記録する。

エ：監査報告の正確性が優先され、当初案に固執してはならない。

総合解説：監査結論は報告直前まで得られた十分かつ適切な証拠に基づいて更新する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0113

報告・改善・フォローアップ事例 > 監査報告・フォローアップ | 難易度：基礎

【事例】監査報告書に機密性の高い脆弱性詳細が含まれる。配布方法として最も適切なものはどれか。

- ア．知る必要がある関係者に限定し、アクセス制御された方法で配布する
- イ．全社員へメール一斉送信する
- ウ．社外Webサイトへ公開する
- エ．報告書を作らず口頭だけにする

答え・解説

正答：ア

ア：報告の有用性と秘密保持を両立する必要がある。

イ：攻撃に悪用される情報が漏えいするおそれがある。

ウ：必要性和承認なしでは不適切である。

エ：監査記録と説明責任を損なう。

総合解説：監査報告書には重要なセキュリティ情報や個人情報が含まれる場合があり、配布先と保管を統制する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0114

報告・改善・フォローアップ事例 > 監査報告・フォローアップ | 難易度：標準

【事例】高リスク指摘の改善期限を過ぎても未対応である。フォローアップとして最も適切なものはどれか。

- ア．期限を過ぎたので自動的に完了扱いする
- イ．未対応理由、残存リスク、暫定対策、再計画を確認し、必要に応じ経営層へエスカレーションする
- ウ．監査人が自ら本番変更して改善する
- エ．記録せず次回監査まで待つ

答え・解説

正答：イ

ア：リスクが残る。

イ：重要な未改善事項は単なる期限管理ではなく、残存リスクを管理する必要がある。

ウ：業務執行への関与になる。

エ：重大リスクの放置になる可能性がある。

総合解説：フォローアップでは進捗だけでなく、残存リスクと代替統制を確認し、必要な報告経路を使う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0115

報告・改善・フォローアップ事例 > 監査報告・フォローアップ | 難易度：標準

【事例】対象部門は『改善完了』と報告したが、提出された証拠は新しい手順書だけだった。最も適切なフォローアップはどれか。

- ア．手順書があるので直ちに完了とする
- イ．手順書を無視して改善なしと断定する
- ウ．手順書の整備に加え、実際に新手順が運用されている証拠を確認する
- エ．担当者の口頭説明だけ追加して完了とする

答え・解説

正答：ウ

ア：運用有効性が未確認である。

イ：整備自体は改善の一部である。

ウ：改善完了は文書作成だけでなく、統制が実際に機能しているかで判断する。

エ：重要指摘では運用証拠も必要である。

総合解説：フォローアップでは整備状況と一定期間の運用実績を確認し、期待したリスク低減が実現しているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0116

報告・改善・フォローアップ事例 > 監査報告・フォローアップ | 難易度：標準

【事例】重大指摘の改善としてMFAを導入したが、特権IDだけ適用対象外だった。最も適切なフォローアップ評価はどれか。

- ア．MFAを導入した事実だけで完了とする
- イ．MFAは必ず無効な対策とする
- ウ．特権IDはアクセス制御の対象外とする
- エ．最も高リスクな特権IDが対象外であるため、改善目的が十分達成されているか再評価する

答え・解説

正答：エ

ア：重要対象が除外されている。

イ：適切に適用すれば有効な統制である。

ウ：むしろ高リスクで重点管理が必要である。

エ：改善策の導入有無だけでなく、対象範囲がリスクに対応しているか確認する。

総合解説：改善措置が指摘されたリスクを十分カバーしているか、例外範囲と残存リスクを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0117

報告・改善・フォローアップ事例 > 監査報告・フォローアップ | 難易度：標準

【事例】監査報告会で対象部門が指摘への反対意見を示した。最も適切な対応はどれか。

ア．反対理由と追加情報を確認し、必要なら再評価した上で、最終的には監査証拠に基づく結論を説明する

イ．反対された指摘はその場で全て撤回する

ウ．反対意見を一切聞かない

エ．感情的に反論する

答え・解説

正答：ア

ア：意見を聞くことと監査判断を委ねることは別である。

イ：独立性を損なう。

ウ：重要な追加情報を見逃す可能性がある。

エ：客観的なコミュニケーションにならない。

総合解説：監査報告では対象部門との認識差を整理し、必要なら追加証拠を確認して公正に結論を形成する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0118

報告・改善・フォローアップ事例 > 監査報告・フォローアップ | 難易度：標準

【事例】監査報告後、同じ指摘が翌年も再発した。最も適切な監査人の着眼点はどれか。

ア．前回と同じ文章をそのまま再提出する

イ．前回改善策がなぜ定着しなかったか、原因分析・責任・モニタリングを再評価する

ウ．前年に報告済みなので今回は無視する

エ．再発件数だけ増やして報告する

答え・解説

正答：イ

ア：根本原因や改善の失敗を分析できない。

イ：再発は改善策の設計又は運用・フォローアップに問題があった可能性を示す。

ウ：継続リスクを見逃す。

エ：原因と統制の見直しが必要である。

総合解説：フォローアップは一時的な対策だけでなく、改善が定着し再発を防いでいるかまで確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0119

報告・改善・フォローアップ事例 > 監査報告・フォローアップ | 難易度：応用

【事例】フォローアップで、対象部門は恒久対策の完了まで暫定統制を実施している。最も適切な評価はどれか。

- ア．暫定統制があれば恒久対策は不要とする
- イ．恒久対策完了まで全て未対応とだけ評価する
- ウ．暫定統制が残存リスクを許容可能な水準まで低減しているか、恒久対策の期限と併せて確認する
- エ．暫定統制の実施証拠は不要とする

答え・解説

正答：ウ

ア：長期的に十分とは限らない。

イ：有効な暫定策によるリスク低減を無視する。

ウ：暫定策の存在だけでなく有効性と期限を評価する必要がある。

エ：運用有効性の確認が必要である。

総合解説：重大リスクでは短期の暫定対応と中長期の恒久対策を並行管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0120

報告・改善・フォローアップ事例 > 監査報告・フォローアップ | 難易度：応用

【事例】年度報告で複数監査の結果をまとめる。最も適切な報告方法はどれか。

- ア．全監査報告書を時系列に並べるだけ
- イ．改善済み事項は全て記録から消す
- ウ．重要度を考慮せず件数だけ比較する
- エ．個別指摘を共通リスク・重要度・改善状況で集約し、次年度の重点監査テーマへつなげる

答え・解説

正答：エ

ア：経営上の傾向や共通課題が分かりにくい。

イ：改善実績も監査活動の成果として重要である。

ウ：重大リスクが埋もれる。

エ：年度報告は個別監査の単純な一覧ではなく、組織全体の監査上の課題を示す。

総合解説：年度報告では、重要な指摘、改善状況、共通テーマ、監査実績を経営目標と結び付けて示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0121

対象別複合事例 > 開発・プロジェクト監査 | 難易度：基礎

【複合事例】開発プロジェクトは予定より2か月遅延している。進捗報告では『90%完了』だが、結合テストは未着手である。最も適切な監査人の着眼点はどれか。

ア：進捗率の算定根拠、未完了成果物、クリティカルパス、テスト開始条件を確認し、報告の実態適合性を評価する

イ：90%という数字だけで順調と判断する

ウ：遅延しているので全ての成果物が無効とする

エ：結合テストは監査対象外とする

答え・解説

正答：ア

ア：単一の進捗率を鵜呑みにせず、成果物・工程・依存関係で実態を検証する。

イ：進捗率の定義や残作業の重要性を確認していない。

ウ：遅延と品質は別途評価が必要である。

エ：開発品質・移行判断に重要な工程である。

総合解説：プロジェクト監査では、WBS、マイルストーン、成果物、課題、テスト進捗等を突合して進捗報告の信頼性を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0122

対象別複合事例 > 開発・プロジェクト監査 | 難易度：基礎

【複合事例】要件変更が頻発し、開発費が増加しているが、変更理由と承認記録が残っていない。最も重要な監査手続はどれか。

ア：開発者人数だけを確認する

イ：要件変更一覧を作成し、各変更の要求元・影響評価・承認・費用・スケジュールへの反映を追跡する

ウ：最新要件書だけを見て過去変更を無視する

エ：費用超過を全てベンダ責任と断定する

答え・解説

正答：イ

ア：変更管理の妥当性を検証できない。

イ：スコープ変更とコスト増加の因果関係を証拠で確認できる。

ウ：変更経緯と承認を確認できない。

エ：変更要求側や契約条件も確認する必要がある。

総合解説：要件変更はスコープ、コスト、納期、品質へ影響するため、変更管理プロセスを一連で監査する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0123

対象別複合事例 > 開発・プロジェクト監査 | 難易度：基礎

【複合事例】設計レビューは実施済みとされるが、重大欠陥が後工程で多数発見された。最も適切な監査人の判断はどれか。

- ア．レビュー記録があれば品質統制は有効とする
- イ．後工程の欠陥は設計レビューと必ず無関係とする
- ウ．レビュー実施の有無だけでなく、レビュー観点・参加者・指摘対応・完了条件の有効性を再評価する
- エ．欠陥数だけで開発者の能力不足と断定する

答え・解説

正答：ウ

ア：実効性を確認していない。

イ：レビュー品質に原因がある可能性がある。

ウ：形式的にレビューを実施していても、品質ゲートとして機能していない可能性がある。

エ：工程・要件・レビュー・テスト等複数要因を確認する必要がある。

総合解説：開発監査ではレビュー実施証跡に加え、指摘内容、是正完了、再発傾向まで確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0124

対象別複合事例 > 開発・プロジェクト監査 | 難易度：標準

【複合事例】EVMでCPIが0.80、SPIが1.00である。最も適切な監査上の解釈はどれか。

- ア．コスト・進捗とも完全に良好である
- イ．進捗が20%遅れている
- ウ．予算は必ず20%削減できる
- エ．進捗は計画どおりだが、投入コストに対する出来高効率が悪化している可能性がある

答え・解説

正答：エ

ア：CPIが1未満である。

イ：SPIは1.00である。

ウ：CPIからそのようには導けない。

エ：CPIが1未満はコスト効率悪化、SPIが1付近はスケジュール進捗が計画相当を示す。

総合解説：監査ではEVM数値だけでなく、出来高測定方法や基準計画の変更履歴も確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0125

対象別複合事例 > 開発・プロジェクト監査 | 難易度：標準

【複合事例】テスト終了判定で未解決の重大欠陥が残っているが、納期優先で本番移行を予定している。最も適切な監査人の着眼点はどれか。

- ア．残存欠陥の事業影響、受容権限、代替策、移行判定基準への適合を確認する
- イ．納期を守るため全欠陥を自動的に受容する
- ウ．重大欠陥が一件でもあれば必ず永久延期する
- エ．開発者だけが本番移行を決定する

答え・解説

正答：ア

ア：納期だけでなく、残存リスクが適切な権限者によって評価・受容されているかを見る。

イ：リスク評価と承認が不足する。

ウ：影響と代替策、受容判断を踏まえて判断する。

エ：業務・経営上の影響を踏まえた適切な承認が必要である。

総合解説：開発監査では終了基準、未解決欠陥、リスク受容、ロールバック計画等を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0126

対象別複合事例 > 開発・プロジェクト監査 | 難易度：標準

【複合事例】アジャイル開発でスプリントごとの変更は多いが、プロダクトバックログの優先順位変更理由が記録されていない。最も適切な監査要点はどれか。

- ア．変更回数をゼロにする
- イ．重要な優先順位変更が事業価値・リスクに基づき権限者によって決定され、追跡可能であるか
- ウ．バックログを固定して一切変更しない
- エ．開発者個人の判断だけで優先順位を変更する

答え・解説

正答：イ

ア：アジャイルの特性を否定している。

イ：アジャイルでも意思決定の透明性・説明責任は必要である。

ウ：適応的開発の利点を失う。

エ：ビジネス価値と説明責任が不明確になる。

総合解説：監査では、反復開発を前提に、バックログ、Done定義、レビュー、変更履歴、プロダクトオーナーの責任を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0127

対象別複合事例 > 開発・プロジェクト監査 | 難易度：標準

【複合事例】CI/CDパイプラインでコードが自動的に本番へ反映される。最も重要な監査上の統制はどれか。

- ア．自動化されていれば承認は不要である
- イ．開発者全員へ本番管理者権限を付与する
- ウ．コード変更の承認、テスト結果、パイプライン設定変更、デプロイ権限が適切に管理されていること
- エ．パイプライン設定は監査対象外とする

答え・解説

正答：ウ

ア：自動化は統制責任をなくさない。

イ：職務分掌と最小権限を損なう。

ウ：高速自動化でも、誰が何を変更し、どの品質ゲートを通過したかの統制が必要である。

エ：本番反映を制御する重要な構成要素である。

総合解説：自動デプロイではソース管理、レビュー、自動テスト、パイプライン設定、秘密情報、デプロイログを一体で評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0128

対象別複合事例 > 開発・プロジェクト監査 | 難易度：標準

【複合事例】プロジェクトの課題一覧には重大課題が長期間『対応中』のまま残っている。最も適切な監査手続はどれか。

- ア．課題件数だけ数える
- イ．『対応中』なら問題なしとする
- ウ．課題一覧を削除して新しく作る
- エ．重大課題の所有者・期限・対応方針・エスカレーション履歴を追跡し、遅延が計画へ反映されているか確認する

答え・解説

正答：エ

ア：重大課題への対応状況が分からない。

イ：長期滞留の原因と影響を確認する必要がある。

ウ：履歴と説明責任を失う。

エ：課題の存在だけでなく、管理・意思決定プロセスが機能しているかを検証する。

総合解説：重大課題はリスク・納期・コスト・品質への影響を評価し、適切な権限者へエスカレーションされる必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0129

対象別複合事例 > 開発・プロジェクト監査 | 難易度：応用

【複合事例】外部ベンダの納品物に欠陥が多いが、検収条件が契約で曖昧である。最も適切な監査評価はどれか。

- ア．契約・RFP段階で品質基準と検収条件が十分具体化されず、受入判定の客観性が弱い可能性がある
- イ．欠陥は全てベンダ担当者個人の責任である
- ウ．検収条件は契約に不要である
- エ．欠陥があるので支払を必ず拒否する

答え・解説

正答：ア

ア：開発品質の問題を契約・調達統制まで遡って評価している。

イ：契約・要件・受入統制も確認すべきである。

ウ：成果物受入の重要基準である。

エ：契約条件と重要性を踏まえて判断する必要がある。

総合解説：複合事例では、表面的な開発欠陥だけでなく、要求・契約・品質保証・検収まで因果関係を追う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0130

対象別複合事例 > 開発・プロジェクト監査 | 難易度：応用

【複合事例】プロジェクト完了後に当初期待した業務削減効果が出ていない。最も適切な監査人の着眼点はどれか。

- ア．システムが稼働しているので投資は成功とする
- イ．投資時の効果指標、実績値、利用定着、業務プロセス変更の実施状況を比較する
- ウ．効果未達を全て開発チームの責任とする
- エ．投資時の効果見積りを確認しない

答え・解説

正答：イ

ア：価値実現を確認していない。

イ：システム完成だけでなく、期待した事業価値が実現したかを評価する。

ウ：利用・業務改革・目標設定等の要因もある。

エ：評価基準を失う。

総合解説：IT投資監査では計画時の便益と稼働後実績を比較し、未達原因と改善を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0131

対象別複合事例 > 運用・セキュリティ・外部サービス監査 | 難易度：基礎

【複合事例】監視システムは重大障害を検知したが、通知設定ミスで担当者へ連絡されず復旧が遅れた。最も適切な監査評価はどれか。

- ア．監視システム全体が完全に無効である
- イ．障害を検知したので統制は全て有効である
- ウ．障害検知統制は機能したが、通知・エスカレーション統制に不備があり、対応開始が遅延した
- エ．通知設定は運用監査と関係しない

答え・解説

正答：ウ

ア：検知自体は機能している。

イ：通知統制が機能していない。

ウ：監視プロセスを検知と通知に分解して評価している。

エ：インシデント対応の重要統制である。

総合解説：運用監査では検知、通知、エスカレーション、復旧を一連のプロセスとして評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0132

対象別複合事例 > 運用・セキュリティ・外部サービス監査 | 難易度：基礎

【複合事例】外部SaaSで障害が発生した。SLA上の可用性目標は満たしているが、月末の重要処理が停止し業務影響が大きかった。最も適切な監査判断はどれか。

- ア．SLAを満たしているので業務影響は無視する
- イ．一度の障害で必ず契約解除する
- ウ．可用性指標は外部サービス監査と無関係である
- エ．SLA達成だけで十分とせず、重要業務の時間帯・影響を反映したサービス目標が適切か再評価する

答え・解説

正答：エ

ア：経営上の重要性を評価していない。

イ：代替性や継続性を含め総合判断が必要である。

ウ：主要なサービス品質指標である。

エ：平均可用性では重要業務への局所的影響を隠す場合がある。

総合解説：監査ではSLA値の達成だけでなく、事業要件に適した指標・測定方法かを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0133

対象別複合事例 > 運用・セキュリティ・外部サービス監査 | 難易度：基礎

【複合事例】EDRが不審挙動を検知したが、アラートが大量で担当者が見落とした。最も適切な改善着眼点はどれか。

- ア．リスクに応じたアラート優先順位、チューニング、対応SLA、エスカレーションを整備する
- イ．EDRを導入しているので統制は十分とする
- ウ．全アラートを同じ優先度にする
- エ．アラートログを保存しない

答え・解説

正答：ア

ア：ツール導入だけでは不十分で、運用可能な検知・対応プロセスが必要である。

イ：アラート運用が機能していない。

ウ：重要アラートが埋もれる。

エ：分析・改善ができない。

総合解説：セキュリティ監査では検知能力とSOC/CSIRTの運用能力を一体で評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0134

対象別複合事例 > 運用・セキュリティ・外部サービス監査 | 難易度：標準

【複合事例】クラウド事業者の障害でデータアクセス不能となったが、利用企業は代替手段を持っていなかった。最も重要な監査要点はどれか。

- ア．クラウド事業者が有名か
- イ．クラウド障害を想定した事業継続策、データ取得手段、代替業務、復旧優先度が定められているか
- ウ．利用料金が安いのか
- エ．サービスログが変更されていないか

答え・解説

正答：イ

ア：継続性を保証しない。

イ：外部サービス依存を事業継続リスクとして評価する必要がある。

ウ：障害時継続策とは直接関係しない。

エ：監査要点ではない。

総合解説：外部サービス監査ではSLAだけでなく、代替手段、データ可搬性、復旧計画、責任分界を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0135

対象別複合事例 > 運用・セキュリティ・外部サービス監査 | 難易度：標準

【複合事例】退職者のVPNアカウントが有効で、海外IPからログイン成功があった。最も適切な初動と監査上の対応はどれか。

- ア．ログを削除してアカウントだけ無効にする
- イ．退職者本人の不正と直ちに断定する
- ウ．アカウントを封じ込め、関連ログを保全し、アクセス範囲と原因を調査した上で権限削除プロセスも評価する
- エ．アカウントが無効化されれば原因調査は不要とする

答え・解説

正答：ウ

ア：証拠を失う。

イ：ID利用事実だけで実行者を確定できない。

ウ：現在の被害拡大防止と、根本原因となるアクセス管理統制の評価を両立する。

エ：再発防止につながらない。

総合解説：セキュリティ事例では封じ込め・証拠保全・影響調査と、統制原因の監査を分けて行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0136

対象別複合事例 > 運用・セキュリティ・外部サービス監査 | 難易度：標準

【複合事例】バックアップはクラウド事業者の同一リージョンにだけ保存されている。最も適切な監査評価はどれか。

- ア．同一リージョンなら必ず不適切である
- イ．クラウドならバックアップ場所は考慮不要である
- ウ．バックアップ件数だけ多ければ十分である
- エ．想定災害・障害シナリオに対して同一リージョン保存で復旧目標を満たせるか評価する必要がある

答え・解説

正答：エ

ア：リスクとサービス特性により判断する。

イ：広域障害等のリスクがある。

ウ：同時被災リスクを評価できない。

エ：バックアップ場所の適切性は脅威シナリオとRTO/RPOによって決まる。

総合解説：監査では障害範囲、レプリケーション、復旧手段、テスト実績を事業継続要件と照合する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0137

対象別複合事例 > 運用・セキュリティ・外部サービス監査 | 難易度：標準

【複合事例】委託先が再委託先へ個人データを渡していたが、委託元は再委託先を把握していなかった。最も適切な監査着眼点はどれか。

- ア．契約上の再委託条件、承認、情報管理要件、事故連絡、委託元による監督が機能しているか
- イ．委託した以上、委託元は管理不要である
- ウ．再委託先の名称だけ把握すれば十分
- エ．個人データでなければ再委託管理は一切不要

答え・解説

正答：ア

ア：委託先管理は再委託まで含めたサプライチェーン管理が必要である。

イ：委託元の管理責任は残る。

ウ：統制要件や監督が必要である。

エ：契約・サービスリスクの観点でも管理が必要な場合がある。

総合解説：外部サービス監査では再委託の承認、同等統制、モニタリング、契約連鎖を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0138

対象別複合事例 > 運用・セキュリティ・外部サービス監査 | 難易度：標準

【複合事例】インシデント対応後、原因と対策は記録されたが、同種の設定ミスが別システムにも存在するか確認していない。最も適切な監査人の提案はどれか。

- ア．被害システムだけ直せば十分とする
- イ．原因となった設定や統制を横展開で点検し、同種リスクの有無を確認する
- ウ．全システムを停止する
- エ．原因記録を削除する

答え・解説

正答：イ

ア：潜在的な同種リスクが残る。

イ：個別復旧だけでなく、共通原因が他システムにも存在する可能性を評価する。

ウ：影響評価なしの過剰対応である。

エ：再発防止に反する。

総合解説：問題管理・再発防止では、共通設定・標準・運用手順を見直し、組織全体へ改善を展開する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0139

対象別複合事例 > 運用・セキュリティ・外部サービス監査 | 難易度：応用

【複合事例】SaaSの契約終了が決まったが、データ移行形式と削除証明の条件が契約にない。最も適切な監査上の評価はどれか。

- ア：終了時は契約がなくなるので監査不要である
- イ：データは事業者に永久保存させればよい
- ウ：出口管理の要件が不十分で、データ可搬性・残存・サービス停止時の事業継続にリスクがある
- エ：契約締結時に出口条件を考える必要はない

答え・解説

正答：ウ

ア：むしろ終了時のリスクが顕在化する。

イ：法令・秘密保持・費用等の問題がある。

ウ：契約終了時のデータ返却・削除は外部サービス管理の重要論点である。

エ：ログインや移行リスクを高める。

総合解説：契約監査では導入時からデータ移行、返却、削除、支援、費用、期間を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0140

対象別複合事例 > 運用・セキュリティ・外部サービス監査 | 難易度：応用

【複合事例】SOCが24時間監視しているが、重大アラートの対応記録が残っていない。最も適切な監査手続はどれか。

- ア：SOCの席数だけ確認する
- イ：24時間体制なので証拠は不要とする
- ウ：担当者の口頭説明だけで全期間有効とする
- エ：アラート母集団から重大度別に抽出し、検知時刻・担当・調査・封じ込め・完了までをログやチケットで追跡する

答え・解説

正答：エ

ア：対応品質を評価できない。

イ：監査・改善に必要な記録が欠ける。

ウ：運用証拠が不足する。

エ：監視体制の存在だけでなく、実際のインシデント処理が有効かを確認する。

総合解説：検知、トリアージ、対応、エスカレーション、完了判定の証拠を時系列で確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0141

対象別複合事例 > ガバナンス・BCP・データ / AI監査 | 難易度：基礎

【複合事例】取締役会はDX投資を承認しているが、稼働後の効果測定を一度も受けていない。最も適切な監査評価はどれか。

- ア．IT投資の方向付けは行われているが、成果モニタリングと説明責任の仕組みが弱い
- イ．承認があるのでITガバナンスは完全に有効である
- ウ．効果測定は現場だけの責任で取締役会と無関係である
- エ．DX投資は効果を測定できないので評価不要である

答え・解説

正答：ア

ア：ITガバナンスは投資承認だけでなく、成果の評価・監督まで含む。

イ：事後評価が不足している。

ウ：重要投資の監督はガバナンス上の論点である。

エ：適切なKPIや価値指標を設定できる。

総合解説：監査では経営戦略との整合、投資判断、成果測定、リスク、説明責任を一連で評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0142

対象別複合事例 > ガバナンス・BCP・データ / AI監査 | 難易度：基礎

【複合事例】BCPでは重要業務のRTOを4時間としているが、DR訓練では復旧に9時間かった。最も適切な監査判断はどれか。

- ア．訓練なので9時間でも問題ない
- イ．現行DR能力ではBCPのRTOを満たせないため、復旧手順・資源・目標の整合を見直す必要がある
- ウ．RTOを9時間へ自動変更する
- エ．DR訓練結果を記録しない

答え・解説

正答：イ

ア：訓練は実現可能性を検証するために行う。

イ：計画上の目標と訓練実績のギャップを評価している。

ウ：事業要件を確認せず目標を緩和してはならない。

エ：改善に必要な証拠を失う。

総合解説：BCM監査ではBIA、RTO/RPO、DR構成、訓練結果、改善計画の整合を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0143

対象別複合事例 > ガバナンス・BCP・データ / AI監査 | 難易度：基礎

【複合事例】顧客解約予測AIの精度は高いが、学習データの取得元や更新責任者が不明確である。最も重要な監査要点はどれか。

- ア．精度が高ければデータ管理は不要である
- イ．AI担当者だけが自由にデータを選べばよい
- ウ．学習データの出所、品質基準、変更履歴、責任者、利用目的がガバナンスされているか
- エ．学習データは監査対象外とする

答え・解説

正答：ウ

ア：将来の再学習や誤データ混入リスクが残る。

イ：組織的な責任と基準が必要である。

ウ：モデル精度だけでなく、データの信頼性・説明責任が必要である。

エ：AI出力の品質・公平性へ直接影響する。

総合解説：AI監査ではモデル性能とともに、データ由来、品質、権限、変更、利用目的を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0144

対象別複合事例 > ガバナンス・BCP・データ / AI監査 | 難易度：標準

【複合事例】経営会議はリスク一覧を四半期ごとに確認しているが、重大サイバーリスクの対応期限が何度も延長されている。最も適切な監査人の着眼点はどれか。

- ア．四半期レビューしているので問題なしとする
- イ．期限延長は全て禁止する
- ウ．リスク一覧の件数だけ確認する
- エ．リスク所有者、延長理由、残存リスク、代替統制、経営者による受容判断が明確か

答え・解説

正答：エ

ア：対応遅延と残存リスクを評価していない。

イ：合理的理由と代替策がある場合もある。

ウ：実際の対応状況が分からない。

エ：形式的にレビューしていても、重要リスクへの意思決定が機能しているかを確認する。

総合解説：ガバナンス監査では、重大リスクの受容・対応・エスカレーションに経営の説明責任があるかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0145

対象別複合事例 > ガバナンス・BCP・データ / AI監査 | 難易度：標準

【複合事例】災害訓練でITシステムは復旧できたが、重要な外部委託先と連絡が取れず業務再開が遅れた。最も適切な監査評価はどれか。

- ア．IT復旧だけでなく、重要委託先を含む業務継続体制と連絡・代替手段に不備がある
- イ．ITが復旧したのでBCPは完全に有効である
- ウ．委託先は自社BCPの対象外である
- エ．連絡不能は訓練なので記録不要である

答え・解説

正答：ア

ア：BCPは自社ITだけでなく、サプライチェーンや外部依存も含める必要がある。

イ：業務再開が遅れている。

ウ：重要依存先は継続性評価の対象となる。

エ：訓練の重要な改善事項である。

総合解説：BCM監査では人、施設、IT、委託先、通信、代替業務を総合して事業継続能力を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0146

対象別複合事例 > ガバナンス・BCP・データ / AI監査 | 難易度：標準

【複合事例】生成AIへの入力禁止データを規程で定めているが、利用ログを取得していない。最も適切な監査評価はどれか。

- ア．規程があるので統制は完全に有効である
- イ．方針は整備されているが、遵守状況をモニタリングする証拠がなく運用有効性を確認しにくい
- ウ．ログがないので規程自体も存在しないと判断する
- エ．生成AI利用は監査対象外とする

答え・解説

正答：イ

ア：実際の遵守を確認できない。

イ：統制の整備と運用・モニタリングを区別している。

ウ：規程の整備事実は別である。

エ：データ漏えい等のリスクがある。

総合解説：AI利用では方針、教育、アクセス、ログ、例外、モニタリングを組み合わせで統制する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0147

対象別複合事例 > ガバナンス・BCP・データ / AI監査 | 難易度：標準

【複合事例】データ品質KPIは『欠損率』だけで、重複や更新遅延は測定していない。最も適切な監査人の提案はどれか。

- ア．欠損率だけを永久に使い続ける
- イ．KPIを廃止し感覚で品質を判断する
- ウ．業務目的とデータ利用特性に応じ、正確性・完全性・一貫性・適時性等の品質指標を組み合わせる
- エ．全データに同じ閾値を無条件適用する

答え・解説

正答：ウ

ア：品質の多面的な特性を捉えられない。

イ：客観的モニタリングができない。

ウ：単一指標では重要な品質問題を見逃す可能性がある。

エ：重要性や用途に応じた基準が必要である。

総合解説：データガバナンスではデータ所有者、品質基準、測定、是正を一体で管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0148

対象別複合事例 > ガバナンス・BCP・データ / AI監査 | 難易度：標準

【複合事例】AIモデルの精度低下が検知されたが、再学習の承認手続がなく担当者が独自にモデルを更新している。最も重要な監査要点はどれか。

- ア．精度が上がれば無承認変更でも問題ない
- イ．モデル更新履歴は保存しなくてよい
- ウ．AIモデルは変更管理の対象外とする
- エ．モデル変更について承認、データ・性能評価、版管理、本番反映、ロールバックが管理されているか

答え・解説

正答：エ

ア：変更の再現性・説明責任・リスク管理が必要である。

イ：どのモデルがいつ使われたか追跡できない。

ウ：出力に重要な影響を与える。

エ：AIモデルも本番システムの一部として変更管理が必要である。

総合解説：監査ではデータ変更、再学習、評価、承認、デプロイ、モニタリングのライフサイクルを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0149

対象別複合事例 > ガバナンス・BCP・データ / AI監査 | 難易度：応用

【複合事例】取締役会はAI導入を承認したが、倫理・法務・情報セキュリティ部門のレビューを行っていない。最も適切な監査評価はどれか。

ア：経営判断に必要なリスク観点が十分統合されておらず、AIガバナンスの意思決定プロセスに不足がある

イ：取締役会承認があれば他部門レビューは不要である

ウ：AIは法務やセキュリティと無関係である

エ：AI導入は現場だけで決めるべきである

答え・解説

正答：ア

ア：AI導入は技術・事業価値だけでなく、法務・倫理・セキュリティ等の横断的リスク評価が必要である。

イ：十分な情報に基づく意思決定が必要である。

ウ：個人情報、知財、漏えい等のリスクがある。

エ：重要度に応じたガバナンスが必要である。

総合解説：監査ではAI利用目的、リスク評価、責任、データ、モデル、利用者、モニタリングを経営レベルで統合管理しているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0150

対象別複合事例 > ガバナンス・BCP・データ / AI監査 | 難易度：応用

【複合事例】BCP訓練では毎年同じ簡単なシナリオだけを実施し、毎回成功している。最も適切な監査人の評価はどれか。

ア：毎年成功しているのでBCPは完全に有効である

イ：訓練成功だけで安心せず、重要リスクの変化を反映した複数シナリオで対応能力を検証する必要がある

ウ：成功した訓練結果は記録不要である

エ：訓練は一度実施すれば以後不要である

答え・解説

正答：イ

ア：想定外事象への対応力は未確認である。

イ：訓練は現実的な脅威と弱点を発見するため、環境変化に応じて更新する必要がある。

ウ：継続的改善の証跡となる。

エ：組織・システム・脅威は変化する。

総合解説：監査ではシナリオの妥当性、参加者、目標、結果、課題、改善反映を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02